

# アニュアルレポート 2011

2011年12月期(2011.1~2011.12)

# CONTENTS

連結財務ハイライト	1
株主・投資家の皆様へ	2
事業の概況	3
ストックビジネスへの注力	7
大塚商会は、お客様のパートナー	10
大塚商会は、幅広いお客様に 支えられています	11
重点戦略事業の概況(単体)	12
大塚商会のWebサービス(ASP)	13
次期の見通し	14
社会貢献活動・環境保全活動	16
コーポレート・ガバナンス	18
取締役および監査役	27
事業等のリスク	28
財務セクション	29
企業グループの状況	53
会社概要	54
株式の状況	55

## ミッションステートメント

### 使 命


大塚商会は多くの企業に、情報・通信技術の革新によってもたらされる新しい事業機会や経営改善の手段を具体的な形で提供し、企業活動全般にわたってサポートします。そして、各企業の成長を支援し、わが国のさらなる発展と心豊かな社会の創造に貢献しつづけます。

### 目 標

- 社会から信頼され、支持される企業グループとなる。
- 従業員の成長や自己実現を支援する企業グループとなる。
- 自然や社会とやさしく共存共栄する  
先進的な企業グループとなる。
- 常に時代にマッチしたビジネスモデルを  
創出しつづける企業グループとなる。

### 行動指針

- 常にお客様の目線で考え、お互いに協力して行動する。
- 先達のチャレンジ精神を継承し、自ら考え、進んで行動する。
- 法を遵守し、社会のルールに則して行動する。

 大塚商会

本アニュアルレポートに記載されている将来の業績に関する予想、計画、見通しなどは、当社および当社グループ会社が現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、これらの業績見通しとは大きく異なる可能性があります。

そのような要因には、主要市場の経済状況および製品需要の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行の変更などがあります。

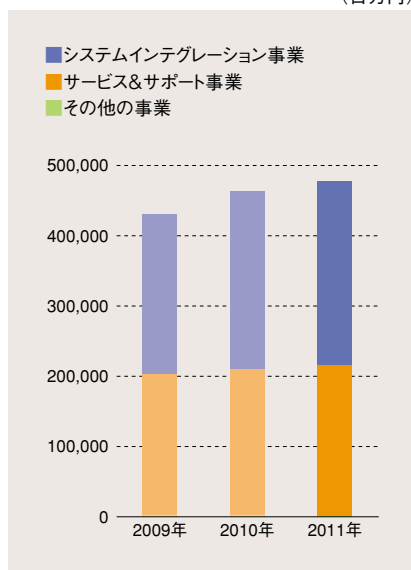
# 連結財務ハイライト

株式会社大塚商会および連結子会社 12月31日に終了した各年度			百万円	千米ドル	%
	2009	2010	2011	2011	増減率
売上高	¥429,927	¥463,493	<b>¥478,215</b>	<b>\$6,152,266</b>	+3.2
システムインテグレーション事業	226,688	253,541	<b>262,508</b>	<b>3,377,178</b>	+3.5
サービス&サポート事業	200,938	208,008	<b>214,576</b>	<b>2,760,540</b>	+3.2
その他の事業	2,300	1,942	<b>1,130</b>	<b>14,546</b>	-41.8
営業利益	16,094	19,013	<b>23,095</b>	<b>297,120</b>	+21.5
経常利益	16,427	19,508	<b>23,315</b>	<b>299,954</b>	+19.5
税金等調整前当期純利益	16,237	18,687	<b>22,350</b>	<b>287,542</b>	+19.6
当期純利益	8,782	10,631	<b>12,744</b>	<b>163,952</b>	+19.9
総資産	198,076	213,401	<b>229,610</b>	<b>2,953,951</b>	+7.6
有利子負債	8,684	7,802	<b>8,415</b>	<b>108,266</b>	+7.9
自己資本	101,740	108,255	<b>116,633</b>	<b>1,500,500</b>	+7.7
1株当たり当期純利益(円、米ドル)	277.92	336.42	<b>403.28</b>	<b>5.19</b>	+19.9
1株当たり配当金(円、米ドル)	130.00	135.00	<b>155.00</b>	<b>1.99</b>	+14.8
1株当たり営業キャッシュ・フロー(円、米ドル)	505.74	564.91	<b>732.82</b>	<b>9.42</b>	+29.7
売上高営業利益率(%)	3.74	4.10	<b>4.83</b>	—	
売上高当期純利益率(%)	2.04	2.29	<b>2.66</b>	—	
有利子負債比率(%)	4.38	3.66	<b>3.67</b>	—	
自己資本比率(%)	51.36	50.73	<b>50.80</b>	—	
自己資本当期純利益率(ROE)(%)	8.84	10.13	<b>11.33</b>	—	

自己資本＝純資産合計－新株予約権－少数株主持分  
 自己資本当期純利益率(ROE)を算出する場合の自己資本は期中平均値を使用しています。  
 米ドル金額は、2011年12月末日の為替相場1ドル＝77.73円で換算しています。

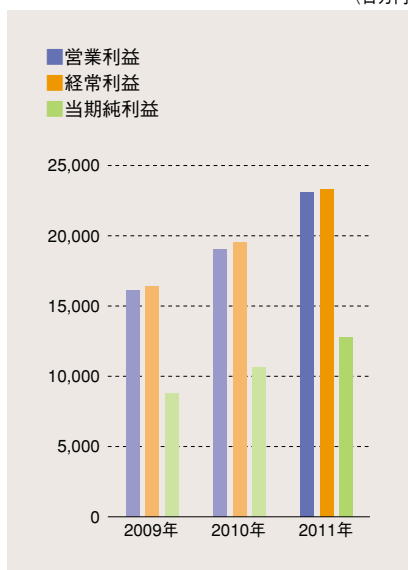
## 売上高

(百万円)



## 営業利益/経常利益/当期純利益

(百万円)



## 総資産/有利子負債

(百万円)



(注記) 本アニュアルレポートの金額表示は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 株主・投資家の皆様へ



株主・投資家の皆様には、平素より格別のご愛顧とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社グループの2011年連結会計年度(2011年1月1日から2011年12月31日まで)の事業概況をご報告申し上げます。

当連結会計年度につきましては、東日本大震災により国内経済は大きな影響を受けましたが、企業のIT投資については次第に持ち直し傾向となりました。当社グループではお客様接点の強化を図り、コスト削減や生産性向上、電力使用量削減等につながる提案を行いました。この結果、売上高は4,782億15百万円(前年同期比3.2%増)となりました。

利益につきましては、売上総利益率の改善と販売費及び一般管理費のコントロールにより、営業利益230億95百万円(前年同期比21.5%増)、経常利益233億15百万円(前年同期比19.5%増)、当期純利益127億44百万円(前年同期比19.9%増)となりました。

期末配当金につきましては、普通配当145円に創立50周年記念配当10円を加えた1株当たり155円とし、ご支援を賜った株主の皆様への利益還元を実施させていただきます。

次期につきましては、経済状況の先行きは不透明な状況ですが、お客様との接点をさらに強化し、お客様のIT活用ニーズを顕在化させてまいります。

当社グループでは今後も「ミッションステートメント」の具現化に努め、皆様の信頼に応えられるよう経営改革を進めてまいります。

株主の皆様にはより一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2012年3月

代表取締役社長 大塚 裕司

# 事業の概況

## ■ IT投資は持ち直し傾向

当連結会計年度(2011年1月1日～2011年12月31日)におけるわが国経済は、当初回復基調で推移していましたが、東日本大震災によるサプライチェーンの混乱や原発事故発生による電力不足から、生産活動の低下や自粛ムードが起これ国内経済に大きな影響を及ぼしました。このサプライチェーンの問題は徐々に解消に向かいましたが、電力不足問題は依然として継続しています。また年後半には、タイ洪水被害の影響で一部業界において部品などの供給問題が発生しました。一方、新興国の経済成長や米国経済の回復を背景に順調であった世界経済は、欧州の財政問題や米国経済の停滞により先行きが不透明となり、一層の円高や株安などが起こりました。

以上のような経済状況にあって国内企業のIT投資は、多くの企業が慎重な姿勢をとるもののシステムの更新や節電対策、BCP(事業継続計画)構築、タブレット端末の活用などによる新たな需要が発生し、持ち直しの動きが出てきました。

## ■ コスト削減、生産性向上につながる提案

このような環境において当社グループは、「お客様の信頼に応え、ITでオフィスを元気にする」を2011年度のスローガンに掲げ、お客様との接点を強化しコスト削減、生産性向上、競争力強化につながるシステム提案を積極的に行いました。また複数の製品やサービスを組み合わせ合わせたバック商材の整備・拡充、魅力ある保守サービスの開発などストックビジネスの充実を通じて、お客様と安定的かつ長期的な取引関係を構築することによる収益基盤の強化を図りました。

さらに震災後は、被災機の代替機貸し出しや一部サービスの無償提供により被災地企業を支援するとともに、新たなIT需要に応えるための節電対策ソリューションやBCPソリューションの提案を行いました。

### 外部環境

国内景気は緩やかに持ち直し傾向

世界経済は弱い回復、欧州の債務危機、金融不安  
輸出は弱含み、円高継続、株安、金利は横ばい  
生産は緩やかに持ち直し傾向、電力供給懸念  
倒産件数は横ばい  
設備投資は持ち直し傾向

IT投資は持ち直し傾向

### 当社グループの取り組み

- コスト削減、生産性向上、競争力強化につながるシステム提案
- お客様接点の強化、フロントライン強化
- 「全員参加型」の活動
- ストックビジネス強化、「たのめーる」、「たよれーる」
- BCP対策、電力使用量削減の提案
- 被災地への支援

## ■増収、二桁の増益

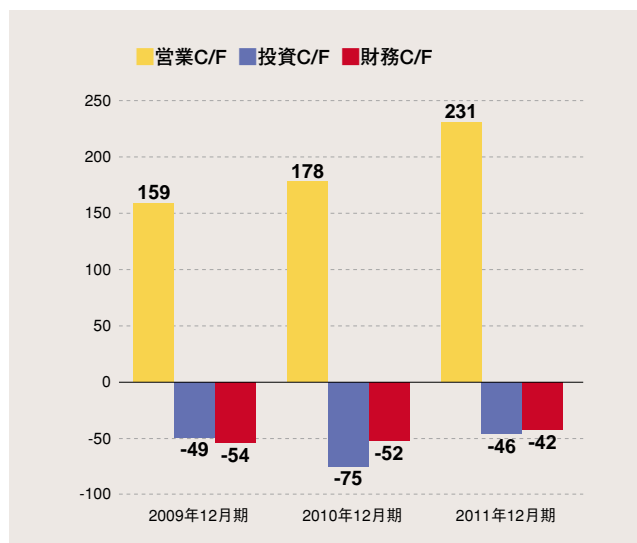
以上の結果、当連結会計年度の売上高は4,782億15百万円(前年同期比3.2%増)となりました。利益につきましては、売上総利益率の改善と販売費及び一般管理費のコントロールにより、営業利益230億95百万円(前年同期比21.5%増)、経常利益233億15百万円(前年同期比19.5%増)、当期純利益127億44百万円(前年同期比19.9%増)となりました。

(単位:百万円)

	2010年12月期	2011年12月期	
	金額	金額	増減率
売上高	463,493	<b>478,215</b>	<b>+3.2%</b>
営業利益	19,013	<b>23,095</b>	<b>+21.5%</b>
経常利益	19,508	<b>23,315</b>	<b>+19.5%</b>
当期純利益	10,631	<b>12,744</b>	<b>+19.9%</b>

## ■キャッシュ・フローの状況

(単位:億円)



営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の増加、たな卸資産の増減額が良化したことなどにより231億58百万円(前年同期比53億6百万円増)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、建て替えを行っていた横浜ビルが当連結会計年度に竣工したことなどにより46億4百万円(前年同期比29億23百万円減)となり、財務活動によるキャッシュ・フローは、42億29百万円(前年同期比9億76百万円減)となりました。

## 四半期別の概況

### ■売上高の推移

売上高は、第1四半期(1~3月)においては、前年同期の学校ICT環境整備に伴う需要の反動や震災の影響により減収となりましたが、第2四半期(4~6月)以降は、増収となりました。

2011年第3四半期(7~9月)売上高は、1,107億45百万円(前年同期比 5.8%増)となり、2011年第4四半期(10~12月)売上高は、1,183億26百万円(前年同期比 3.3%増)となりました。

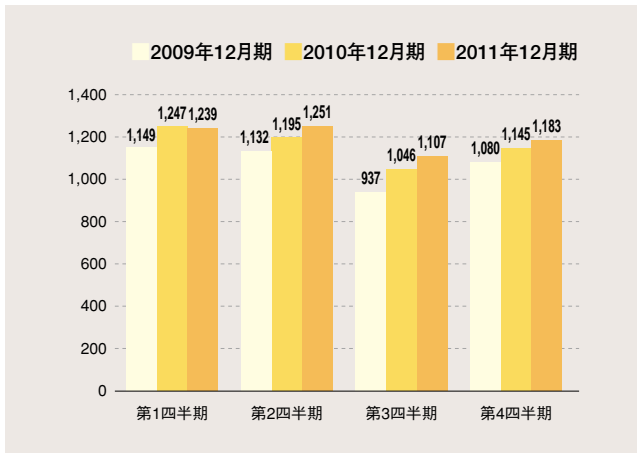
### ■経常利益の推移

経常利益については、第1四半期(1~3月)においても増益を確保し、各四半期とも増益となりました。

2011年第3四半期(7~9月)経常利益は、36億29百万円(前年同期比 72.7%増)となり、2011年第4四半期(10~12月)経常利益は、53億81百万円(前年同期比 10.3%増)となりました。

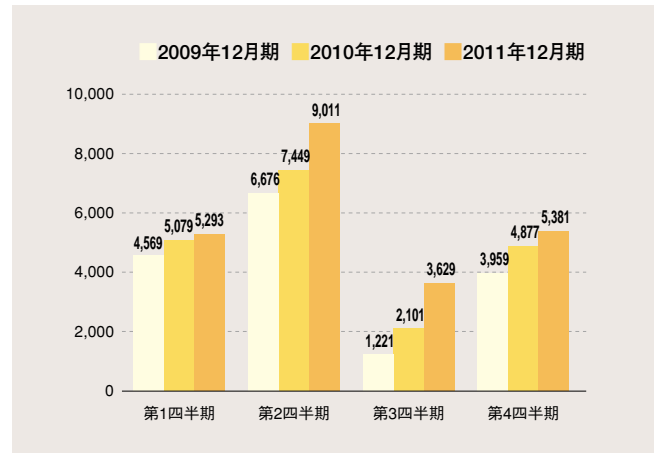
### 売上高の四半期推移

(単位：億円)



### 経常利益の四半期推移

(単位：百万円)



## 事業セグメント別の概況

### ■システムインテグレーション事業

コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、東日本大震災とタイ洪水被害による影響もありましたが、企業におけるシステム更新需要やIT投資に積極的な企業の需要を掴み、パソコンやサーバ、複写機等の販売台数を伸ばし、売上高は2,625億8百万円(前年同期比3.5%増)となりました。

### ■サービス&サポート事業

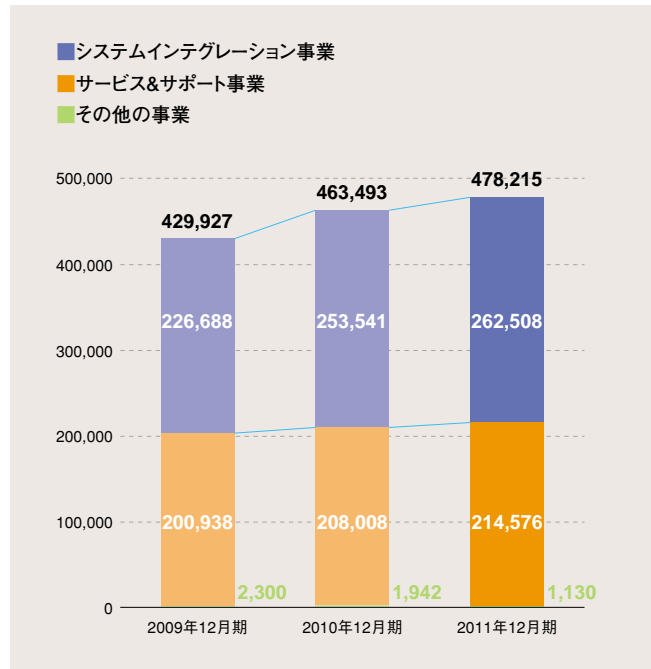
サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、アウトソーシングサービス等により導入システムや企業活動をトータルにサポートするサービス&サポート事業では、震災後の計画停電や自粛ムードの影響を受けた商品やサービスもありましたが、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」を堅調に伸ばし、保守等についても微増となり、売上高は2,145億76百万円(前年同期比3.2%増)となりました。

### ■その他の事業

その他の事業では、売上高は11億30百万円(前年同期比41.8%減)となりました。

### 事業セグメント別の売上高推移

(単位:百万円)





# ストックビジネスへの注力

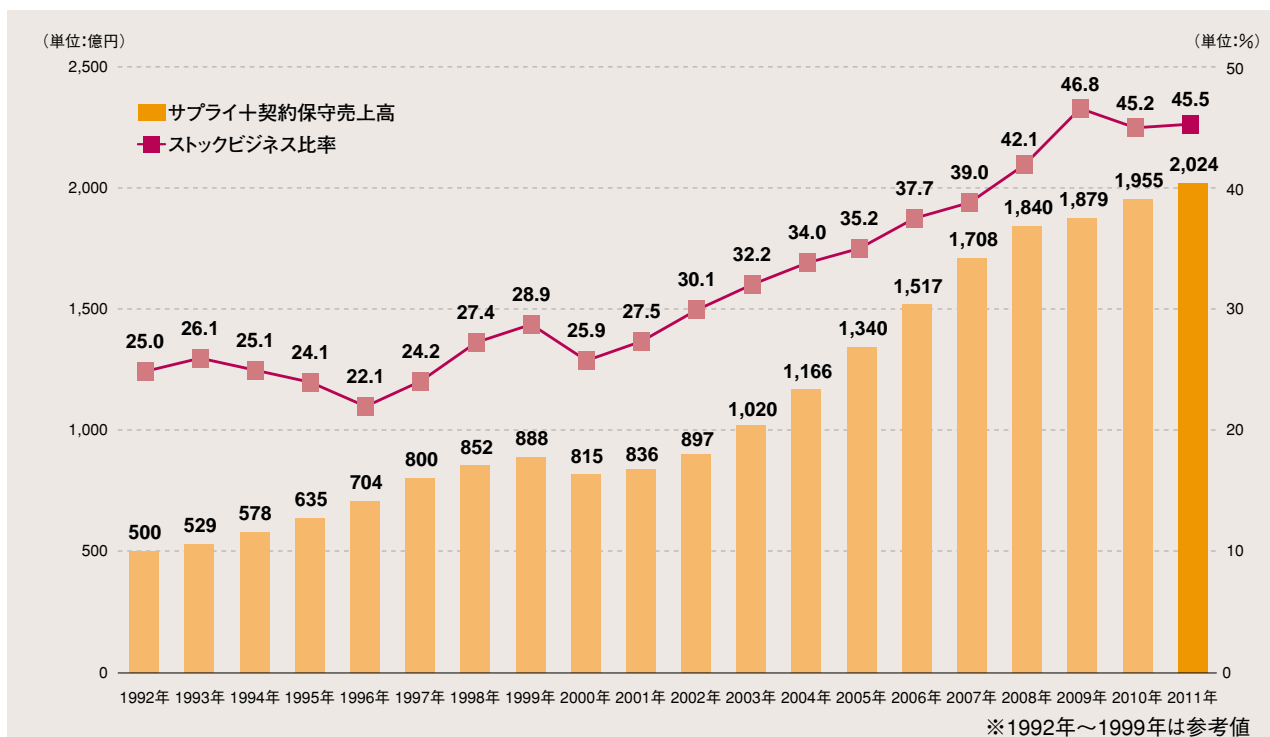
大塚商会では、サービス&サポート事業の中でも、特にオフィスサプライ事業、契約保守サービス事業を、「ストックビジネス」として重視しています。

ストックビジネスは、景気動向の影響を比較的受けにくく、年々積み上がっていく、いわば「足し算のビジネス」と言えるものです。

2011年12月期においても、ストックビジネスの売上高は69億円増(前年同期比 3.5%増)と着実に伸長し2,000億円を超え、売上高に占めるストックビジネスの比率は45.5%となりました。また上場した2000年との比較では1,209億円の増加(約2.5倍)となりました。(単体)

今後もストックビジネスへ注力し、経営の安定性を高めていきます。

## ■ストックビジネスの推移(単体)



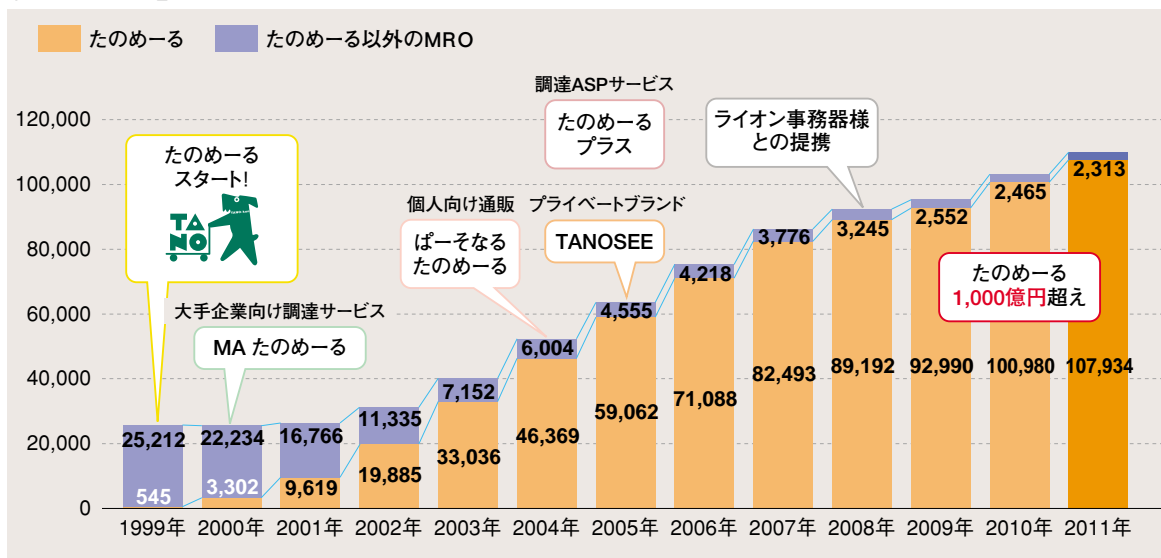
ストックビジネスの中核となる事業が、「たのめーる」と「たよれーる」です。

# たのめーる

オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」は着実に伸長し、2011年12月期の売上高は1,079億円（前年同期比6.9%増）となりました。

「たのめーる」の年次推移

(単位:百万円)



# たよれーる

サポート事業「たよれーる」では、お客様の情報システムや企業活動全般をサポートします。  
大塚商会は、お客様のビジネスインフラに不可欠な存在を目指しています。



# 大塚商会は、お客様のパートナー

大塚商会は、企業のオフィスで必要とされる各種の事務機器、情報機器、通信機器を組み合わせ、ワンストップでご提供し、しかもワンストップでサポートします。

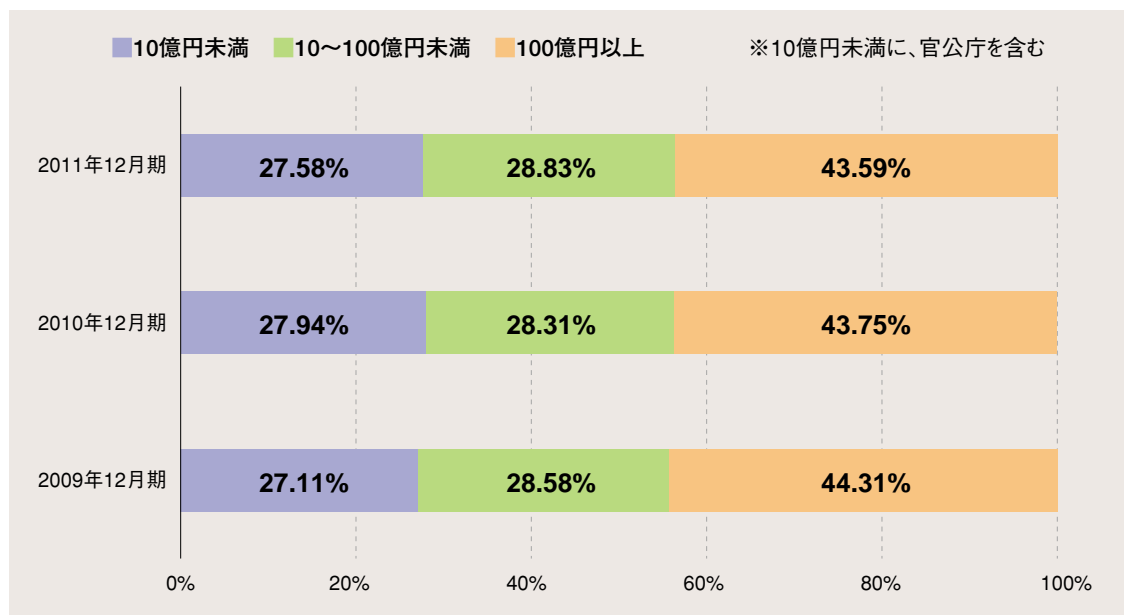
大塚商会は、お客様とともに成長するパートナーを目指しています。



# 大塚商会は、幅広いお客様に支えられています

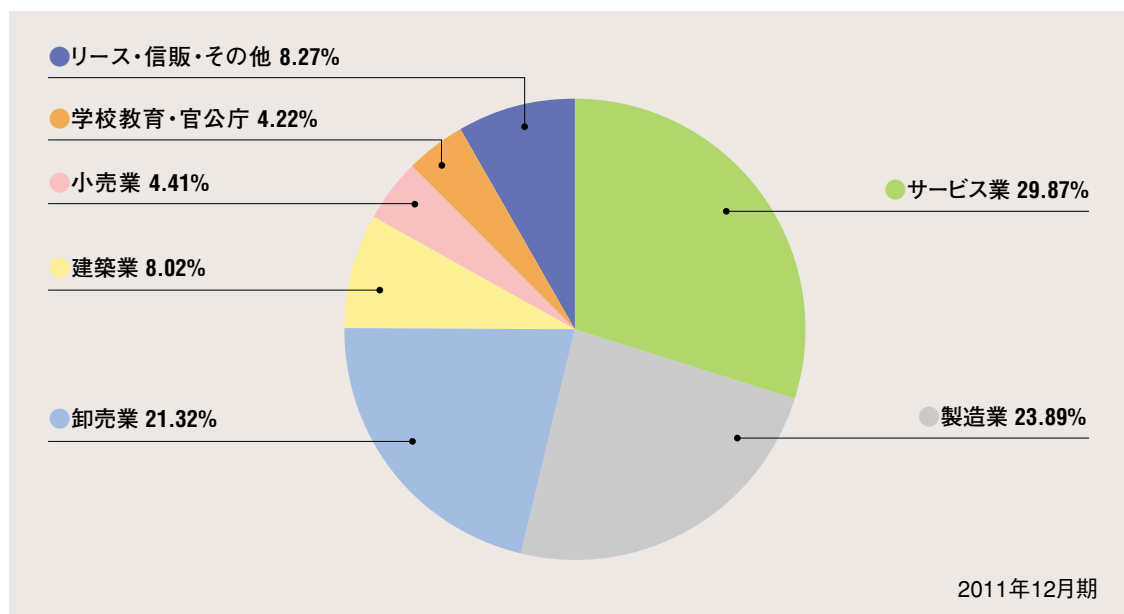
当社のお客様の企業規模別売上構成は、大企業から中堅・中小企業まで、バランスの取れた構成となっています。年商規模別で見ると、2011年は年商10～100億円未満の比率が上昇し、年商10億円未満、年商100億円以上の比率はそれぞれ低下しました。

年商別売上構成(単体)



業種別で見ても、片寄りがなくバランスの取れた構成となっております。2011年は、前年と比べて構成比に大きな変化はありませんでした。

業種別売上構成(単体)



## 重点戦略事業の概況(単体)

〈金額〉

(単位:百万円)

	2009年12月期	2010年12月期		2011年12月期	
	金額	金額	増減率	金額	増減率
たのめーる	92,990	100,980	+8.6%	<b>107,934</b>	<b>+6.9%</b>
SMILE	6,327	6,708	+6.0%	<b>7,774</b>	<b>+15.9%</b>
ODS21	33,073	38,778	+17.2%	<b>40,680</b>	<b>+4.9%</b>
OSM	40,826	43,887	+7.5%	<b>47,113</b>	<b>+7.4%</b>

〈参考:販売台数〉

(単位:台)

	台数	台数	増減率	台数	増減率
	複写機	24,240	27,003	+11.4%	<b>29,153</b>
(内、カラー複写機)	18,144	21,703	+19.6%	<b>24,296</b>	<b>+11.9%</b>
サーバ	32,389	36,405	+12.4%	<b>37,582</b>	<b>+3.2%</b>
パソコン	500,276	666,332	+33.2%	<b>697,057</b>	<b>+4.6%</b>

全般にIT投資の持ち直し傾向を受け、着実に伸長しました。パソコンについては、2010年に学校ICT環境整備に伴う需要がありましたが、2011年はこの影響を吸収し、さらに伸長しました。

複写機におけるカラー複写機の比率は、83.3%になりました。

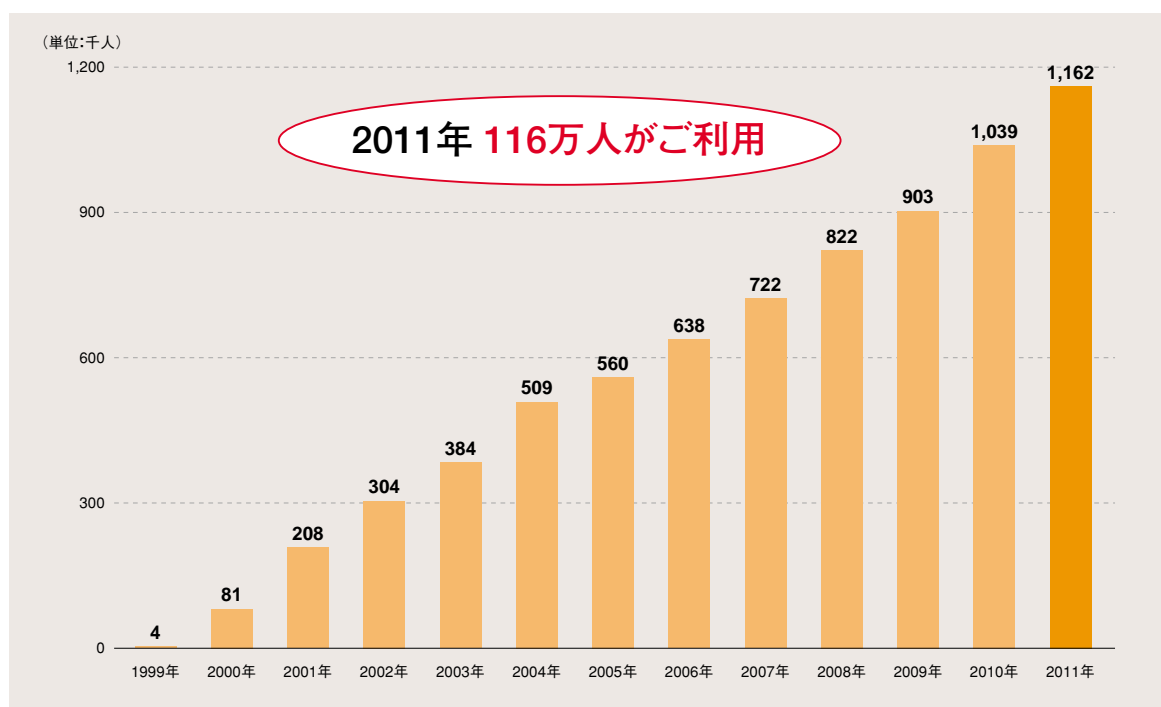
# 大塚商会のWebサービス(ASP)

## ■1999年からサービスを提供。2011年は116万人がご利用

大塚商会が提供する主なWebサービス(ASP)の一つ「アルファメール」では、既に1999年からサービスを提供しています。

Webサービスのご利用人数は着実に増加し、主なWebサービスのご利用人数は、2011年には116万人に達しました。

主なWebサービス(ASP)ご利用人数推移



# 次期の見通し

## ■企業のIT投資は慎重さを伴いながらも底堅く推移すると予想

今後のわが国経済は、欧州景気減速の影響や円高により輸出や生産が弱い動きを継続した後、震災の復旧・復興需要により年後半から企業の設備投資も緩やかに持ち直すものと考えられます。また世界経済は、新興国経済の復調など期待できるものの、欧州の金融問題への懸念など不透明な状況にあります。

このような経済環境のもとで、企業のIT投資は慎重さを伴いながらも、底堅く推移するものと予想されます。西暦2000年問題対応のために導入したシステムの更新需要二巡目、IPv6対応等による買い換え・更新需要、タブレット端末の活用などによるIT市場の活性化や新たな市場の創出が期待されています。また昨年引き続き、省電力パソコンやサーバの導入、サーバの統合化、省電力機器やLED照明を利用したBEMS（ビルエネルギー管理システム）の導入など電力使用量削減と、バックアップサービスやASPなどのデータセンター利用によるBCP対策が企業に必要とされています。

## ■お客様との接点を強化

このような経済状況や企業のIT投資動向に対する見通しを前提として、当社グループは、「お客様の目線で信頼に応え、オフィスを元気にする」を2012年度のスローガンに掲げ、地域密着型運営体制のさらなる強化のもと、お客様との接点を強化してワンストップソリューション、ワンストップサポートに磨きをかけ、生産性向上、投資対効果、電力使用量削減効果の高いシステム提案を積極的に行い、当社グループの持つ総合力を今まで以上に発揮していきます。

また複数の製品やサービスを組み合わせたパック商材の整備・拡充による品揃えの強化、魅力ある保守サービスの開発等ストックビジネスを強化し、お客様と安定的かつ長期的な取引関係を構築し収益基盤の強化を図ります。

### 2012年の方針と施策

#### 〈スローガン〉

「お客様の目線で信頼に応え、オフィスを元気にする」

- ワンストップソリューション、ワンストップサポートに磨きをかけ、お客様接点を強化
- ITニーズ、省エネニーズを顕在化させる
- 顧客深耕と新規開拓を並行して進める
- 総合提案・複合提案の推進
- ストックビジネス強化



## ■セグメント別の施策

システムインテグレーション事業では、企業のIT投資動向やIT活用ニーズを見極めながら、複写機、コンピュータ、FAX、電話機、回線等を組み合わせた複合システム提案や総合提案をさらに推進します。

サービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」において、商材の拡充、プライベートブランド商品「TANOSEE」の充実等を図ります。また、サポート事業「たよれーる」において、システムインテグレーション事業での成果を保守等のサービス契約増につなげ、併せてハードウェアに依存しない新しいサービスを増やします。

## ■次期の業績見通し

次期の連結業績見通しといたしましては、売上高4,930億円(前年同期比3.1%増)、営業利益240億円(前年同期比3.9%増)、経常利益245億円(前年同期比5.1%増)、当期純利益135億50百万円(前年同期比6.3%増)を計画しております。

セグメント別の売上高では、システムインテグレーション事業が2,691億10百万円(前年同期比2.5%増)、サービス&サポート事業が2,229億90百万円(前年同期比3.9%増)、その他の事業が9億円(前年同期比20.4%減)を計画しております。

## 売上高・利益計画

(単位:百万円)

	2011年 12月期	2012年12月期 (計画)	
	金額	金額	増減率
売上高	478,215	<b>493,000</b>	<b>+3.1%</b>
営業利益	23,095	<b>24,000</b>	<b>+3.9%</b>
経常利益	23,315	<b>24,500</b>	<b>+5.1%</b>
当期純利益	12,744	<b>13,550</b>	<b>+6.3%</b>

## セグメント別売上高計画

(単位:百万円)

	2011年 12月期	2012年12月期 (計画)	
	金額	金額	増減率
システムインテグレーション事業	262,508	<b>269,110</b>	<b>+2.5%</b>
サービス&サポート事業	214,576	<b>222,990</b>	<b>+3.9%</b>
その他の事業	1,130	<b>900</b>	<b>-20.4%</b>

## 社会貢献活動・環境保全活動

身近なところから一歩ずつ。私たちは、さまざまな分野で社会貢献活動・環境保全活動に取り組んでいます。2011年度に行った活動の一部を紹介します。

### ■創業50周年記念事業として、LED照明灯等を寄贈

創業50周年記念事業として、各地でLED照明灯等の寄贈を行いました。

広島では、原爆ドームと平和記念公園とを結ぶ元安橋の欄干照明灯のハロゲン電球をLED電球へ交換しました。LED照明にしたことで、消費電力は約75%削減されます。



## ■「震災復興ボランティア」を実施

東日本大震災の被災地支援活動「震災復興ボランティア」を9月と11月に実施しました。

9月に2泊3日で実施した活動では、当社グループ社員133名が参加し、がれきの撤去作業を行いました。砂に埋もれている物を掘り出し、家電製品、金属類、ゴム製品、木材、その他可燃物などに分別しました。

11月に2泊3日で実施した活動では、90名が参加し、農地復興作業(草刈り、がれき撤去)を行いました。



# コーポレート・ガバナンス

## (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

### ■コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、ミッションステートメントに定める企業倫理と遵法の精神に基づき、コンプライアンスの徹底、経営の透明性と公正性の向上により、環境変化への機敏な対応と競争力の強化を目指しております。

#### 1. 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

##### 企業統治の体制及びその体制を採用する理由

当社は会社の機関として、株主総会、取締役及び取締役会、監査役及び監査役会並びに会計監査人を設置しております。

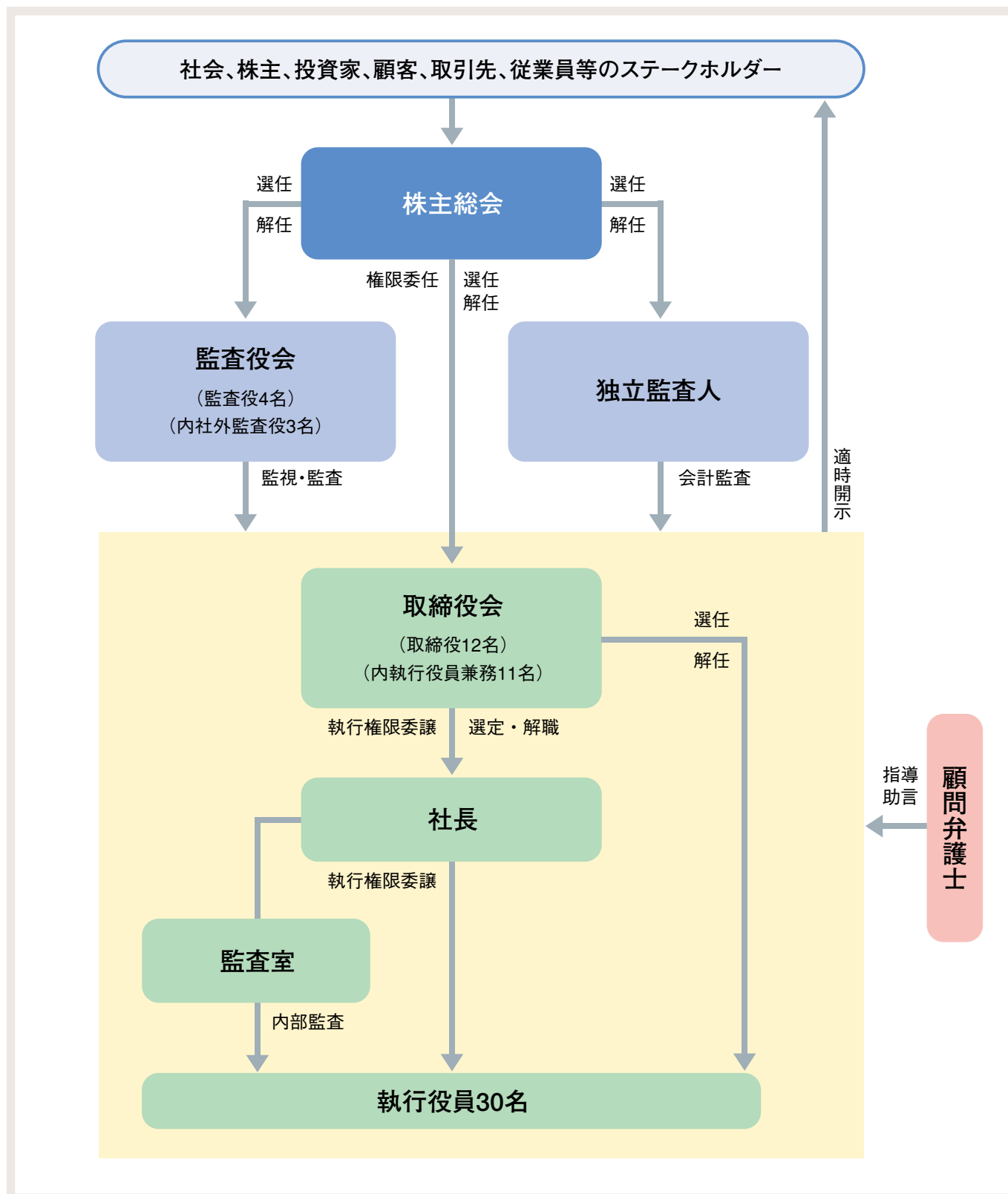
当社の事業領域は多岐にわたっており、これらの領域を理解し、またIT産業に精通していることが重要であるため、社外取締役を主体としたガバナンス体制は適していないと判断しており、監査役制度を採用しております。

取締役会は、毎月1回定時開催し、法令及び定款の規定により取締役会の決議を要する重要事項を審議・決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しております。また、執行役員制度を導入することにより、取締役会で選任された執行役員が業務執行機能を担い、取締役会及び監査役が業務執行の監督機能を担うことで、執行と監督の分離を図り、業務執行の意思決定の迅速化及び取締役会の監督機能の強化を図っております。

監査役会は、社外監査役3名を含む4名の監査役で構成しております。取締役会等、重要な会議体へ出席して適宜助言・勧告を行い、経営の適正な監視及び取締役の職務執行を厳正に監査しております。

さらに、グループ企業の経営トップ(特別執行役員)で構成される「グループ経営者会議」を開催し、各社の経営状況や利益計画の進捗を把握するとともに、コーポレート・ガバナンスの強化に努めております。

当社経営の意思決定、業務執行、監督の体制は概ね以下の通りです。



## 内部統制システム整備の状況

当社は、会社法第362条第5項に従い、取締役会において、業務の適正を確保するための体制の基本方針を次のとおり決議いたしました。

### ●内部統制システムの基本方針

#### 1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

ミッションステートメントをコンプライアンス体制の基礎として、取締役はその遵守及び推進に率先垂範して取り組む。

取締役及び使用人は、継続的なコンプライアンス教育による意識改善、内部監査による業務改善、内部通報制度の適切な活用等を通じてコンプライアンス体制の向上を図り、職務執行の法令及び定款への適合を確保することに努める。

#### 2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報（文書または電磁的記録）及びその他の重要な情報を、法令及び社内規程に基づき、適切に保存、管理する。

#### 3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

社内規程に則してリスク管理体制の整備を進め、経営成績、財政状態等に影響を及ぼすリスクを識別、分析及び評価し、適切な対応を行う。

不測の事態が生じた場合には、対策本部を設置し、リスク情報を集約し、迅速かつ適切な対応策を講じる。

#### 4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は、原則月1回開催し、経営に関する重要事項について、審議、決議及び業務執行状況の監督を行う。また、意思決定の妥当性を高めるための会議体についてその開催及び付議基準を明確化し、業務執行の詳細を「職務権限規程」及び「職務分掌規程」に定め、効率性を高めるものとする。

#### 5) 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

グループ企業は、ミッションステートメントに則した業務執行により、自浄作用を機能させることで業務の適正を確保する。

「グループ経営者会議」の開催で、各グループ企業の経営状況や利益計画の進捗を把握するとともに、「特別執行役員制度」により各グループ企業のコーポレートガバナンスの強化に努めるものとする。

#### 6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役からその職務を補助すべき使用人の設置を求められた場合は、監査役と協議のうえ適切な体制を構築する。

当該使用人への人事権に係る事項の決定については、監査役の事前の同意を得ることにより取締役からの独立性を確保する。

#### 7) 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制及びその他の監査役への報告に関する体制

監査役が取締役及び使用人から業務執行の状況について報告を受けることができる体制を整備するとともに、監査を実施する社内各部署との協調・連携を強化する。

#### 8) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

代表取締役は、監査役と適宜意見交換を行うこととする。

内部監査室は監査役と緊密な関係を保ち、監査役の要請に応じて調査を行うこととする。

## ●反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

### 1) 基本的な考え方

当社は、ミッションステートメント及びコンプライアンス規程において、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持たないことを規定しております。

### 2) 整備状況

当社は、ミッションステートメント及びコンプライアンスマニュアルにおいて、反社会的勢力に対する行動指針を示すとともに、コンプライアンス室と人事総務部を対応部署としております。

また、顧問弁護士や警察及び公益社団法人警視庁管内特殊暴力防止対策連合会等の外部機関と連携して社内体制の整備と情報収集を行うとともに、社員への行動指針の周知徹底を図っております。

## 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査については、社長直轄の監査室を設置しており、当社グループ全体を対象に、業務活動の全般に関して、方針・計画・手続の妥当性や業務実施の有効性、法令の遵守等について、定期・随時に内部監査を実施し、業務改善や意識改善のための具体的な助言・勧告を行っております。

監査役監査については、監査役会が監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、取締役、監査室等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役等からその職務の執行状況について報告を受け、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しております。また、内部統制システムの状況を監視及び検証しております。

監査役と監査室の連携状況は、月1回、定期的に会合を開催し、監査計画、監査実施状況、業務執行状況等に関する情報交換を行い、必要に応じて対処しております。

監査役と会計監査人の連携状況は、適宜会合を開催し、監査計画、監査実施状況、指摘事項の改善状況の確認、取締役の行為の適法性の確認等に関する情報交換を行い、必要に応じて対処しております。

## 会計監査の状況

当社は、会計監査を担当する会計監査人として新日本有限責任監査法人と監査契約を結び、会計監査を受けております。

当期において業務執行した公認会計士の氏名及び監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりです。

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員 秋山 賢一

指定有限責任社員 業務執行社員 坂田 純孝

指定有限責任社員 業務執行社員 向井 誠

### 会計監査業務に係る補助者の人数

公認会計士 14名

その他 11名

※継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

## 社外取締役及び社外監査役との関係

社外取締役は、独立した立場から客観的な視点による経営監視体制の強化を担う者と考えておりますが、当社の事業領域は多岐にわたっており、これらの領域を理解し、またIT産業に精通していることが重要であるため、社外取締役は現在選任しておりませんが、適切な候補者の選定に今後も努めてまいります。

社外監査役は、期末日現在では2名、提出日現在では次の3名を選任しており、それぞれ取締役会に出席し、識見及び経験を活かした意見を積極的に表明しており、これにより取締役会の判断に牽制を働かせております。

監査役牧野二郎氏は、弁護士としての資格を有しているところから社外監査役に選任しております。また、株式会社東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届出を行っております。

監査役杉山幹夫氏は、公認会計士としての資格を有しているところから社外監査役に選任しております。

また、株式会社東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届出を行っております。

新任の、監査役の仲井一彦氏は、公認会計士としての資格を有しているところから社外監査役に選任しております。

なお、各氏と当社との間には特別の利害関係等はありません。

## 社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役は、監査役会において監査報告、内部統制委員会からの内部統制の整備・運用状況等に関する報告並びに監査室からの内部監査の報告を定期的に受け取ることにより、当社グループの現状と課題を把握し、専門的な見地から、必要に応じて取締役会において意見を表明しております。また、会計監査人及び監査室をはじめとする内部監査部門との情報交換・意見交換を適宜行い、監査情報の共有に努めております。

## 2. リスク管理体制の整備の状況

リスク管理体制については、事業リスクマネジメントを推進および統括するための組織としてリスク管理委員会を設置しております。

リスク管理委員会は、会社に関係する全てのリスクを洗い出し評価を行い、重要なリスクについては個別対策を検討し、各所管部門・部署に対してリスク管理を継続的かつ安定的に維持・運用するために、リスクマネジメントシステムの構築を指示しております。同時に危機管理への対応として、①平常時における危機管理への準備、②危機発生時の対応、③事業継続計画・管理への取り組みも進めております。

## 3. 役員報酬の内容

### 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別総額(百万円)			対象となる 役員の員数(名)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役	381	248	60	72	15
監査役 (社外監査役を除く。)	21	20	—	1	3
社外監査役	10	10	—	—	2

(注) 1. 上記には、2011年3月29日開催の第50回定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任した取締役2名及び監査役1名、2010年4月30日をもって辞任により退任した取締役1名を含んでおります。

2. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。



3. 取締役の報酬限度額は、1990年3月13日開催の株主総会決議において年額650百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。
4. 監査役の報酬限度額は、2005年3月30日開催の株主総会決議において年額50百万円以内と決議いただいております。
5. 上記の退職慰労金には、当事業年度における役員退職慰労引当金の増加額が含まれております。

## 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

## 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社の役員の報酬等は、取締役については基本報酬、賞与および退職慰労金により構成され、それぞれの決定方針は以下の通りであります。基本報酬は、株主総会にて決議された総額の範囲内において、使用人の最高位の年収を基礎とし、その職位毎に役割の大きさに応じて決定する固定報酬としております。賞与は、経営に対する貢献度に連動させるため、営業利益達成率と役員個人の業績貢献度を元に決定しております。また、監査役報酬については、株主総会にて決議された総額の範囲内において、監査役会の協議により決定しております。退職慰労金は、原則常勤役員に対して役位毎に年間基本額を設定しており、会社及び個人業績を加減した金額を退任時に支払うこととしております。なお、ストックオプション制度は採用しておりません。

## 4. 株式の保有状況

### 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 67銘柄  
 貸借対照表計上額の合計額 2,121百万円

### 保有目的が純投資目的以外の目的である上場投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)  
 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
テンプホールディングス株式会社	1,000,000	753	取引関係の円滑化・維持
株式会社リコー	192,916	229	同上
株式会社横浜銀行	382,204	160	同上
大和ハウス工業株式会社	100,000	99	同上
スリープログループ株式会社	1,200	85	同上
ウチダエスコ株式会社	180,000	73	同上
株式会社クレディセゾン	50,000	66	同上
ビリングシステム株式会社	500	57	同上
株式会社明光ネットワークジャパン	60,000	40	同上
株式会社京葉銀行	50,000	20	同上

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
テンプホールディングス株式会社	1,000,000	695	取引関係の円滑化・維持
株式会社リコー	213,192	143	同上
株式会社横浜銀行	382,204	139	同上
スリープログループ株式会社	1,200	93	同上
大和ハウス工業株式会社	100,000	91	同上
株式会社クレディセゾン	50,000	77	同上
ウチダエスコ株式会社	180,000	70	同上
ビルディングシステム株式会社	500	52	同上
株式会社明光ネットワークジャパン	60,000	41	同上
大東建託株式会社	4,600	30	同上
株式会社京葉銀行	50,000	19	同上
日本ゼオン株式会社	26,230	17	同上
田辺三菱製薬株式会社	13,300	16	同上
ジェイ・エスコムホールディングス株式会社	150,000	13	同上
日本化薬株式会社	14,317	10	同上
株式会社バンダイナムコホールディングス	9,504	10	同上
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	29,110	9	同上
飯野海運株式会社	25,289	8	同上
協和発酵キリン株式会社	8,000	7	同上
イワブチ株式会社	13,229	5	同上
レンゴー株式会社	7,600	4	同上
第一生命保険株式会社	43	3	同上
株式会社ハイパー	6,000	3	同上
株式会社みずほフィナンシャルグループ	21,520	2	同上
森永製菓株式会社	11,860	2	同上
株式会社オートバックスセブン	500	1	同上
株式会社大京	9,400	1	同上
株式会社マルゼン	2,000	1	同上
キャノンマーケティングジャパン株式会社	1,155	1	同上
株式会社土屋ホールディングス	6,906	0	同上

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

5. 取締役の定数

当社の取締役は19名以内とする旨を定款に定めております。

## 6. 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

## 7. 取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

また、取締役の選任決議については、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

## 8. 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の期末配当の決定機関を定時株主総会としております。

## 9. 中間配当

当社は、取締役会の決議によって毎年6月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

## 10. 自己株式の取得

当社は、経済情勢の変化に対応した機動的な資本政策を遂行できるようにするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

## 11. 取締役及び監査役の責任免除

該当事項はありません。

## 12. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

## (2) 【監査報酬の内容等】

### 1. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	77	—	74	3
連結子会社	14	—	13	—
計	91	—	87	3

### 2. その他重要な報酬の内容

該当事項はありません。

### 3. 監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

当社は、監査公認会計士等に対して、国際財務報告基準(IFRS)に関するコンサルティングを依頼し、対価を支払っております。

### 4. 監査報酬の決定方針

当社は、監査公認会計士等が独立した立場において公正かつ誠実に監査証明業務を行えるよう、監査日数、業務の特性、規模等を勘案し、監査報酬を適切に決定することとしております。

## 取締役及び監査役 (2012年3月28日現在)



代表取締役社長  
大塚 裕司



取締役兼専務執行役員  
濱田 一秀



取締役兼専務執行役員  
片倉 一幸



取締役兼専務執行役員  
高橋 俊泰



取締役兼上席常務執行役員  
塩川 公男



取締役兼常務執行役員  
矢野 克尚



取締役兼常務執行役員  
齋藤 廣伸



取締役兼常務執行役員  
若松 康博

取締役兼上席執行役員

山 幸司  
鶴見 裕信  
広瀬 光哉  
桜井 実

常勤監査役

中野 清  
監査役  
牧野 二郎  
杉山 幹夫  
仲井 一彦

# 事業等のリスク

当社グループの経営成績、財政状態等に影響を与える可能性のある代表的なリスクには、次のようなものが考えられます。これらの項目は、リスクのうち代表的なものであり、実際に起こりうるリスクは、これらに限定されるものではありません。

なお、文中における将来に関する事項は、2012年3月28日現在において当社グループが判断したものです。

## ■顧客に関するリスク

当社グループの顧客は、大企業から中堅・中小企業まで、企業規模・業種ともに幅広く分散しており、特定顧客への依存度は低いと認識しております。

しかし、予測を超えた経済情勢の変化等により、多くの企業のIT投資動向が同一方向に変化した場合、当社グループの経営に影響を与える可能性があります。

## ■調達先に関するリスク

当社グループは顧客に応じた最適な問題解決を行うため、多くの調達先から各分野の優れた製品、サービス、技術(以下、製品等)の供給を受けています。これらの安定的な供給を受けられるよう、調達先との緊密な関係作りに注力する一方、新たな製品等に関する情報収集を絶えず行っています。

しかし、調達先の何らかの事情により、製品等の十分な供給が受けられない事態となり、しかも代替品の供給が得られない場合には、顧客に対して製品等の十分な提供ができず、当社グループの経営に影響を与える可能性があります。

## ■情報漏洩に関するリスク

当社グループでは業務に関連して多数の個人情報および企業情報を保有しており、これらを厳重に管理しています。また、当社は一般財団法人日本情報経済社会推進協会より「プライバシーマーク」の認定を取得しており、インターネットデータセンターにおいては、「ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)適合性評価制度」の認証を取得しています。

情報管理に係る具体的な施策としては、個人情報保護方針を社内外に公表するとともに、個人情報保護規程、機密管理規程、情報システムセキュリティ規程等の諸規程を定めております。就労者と機密保持誓約書を取り交わした上で、独自の教育制度である「CP(コンプライアンスプログラム)免許制度」などにより情報管理への意識を高め、外部への情報漏洩を防いでいます。

しかし、これらの施策にもかかわらず、個人情報や企業情報が万一漏洩した場合には、損害賠償責任を負うばかりでなく社会的信用を失うこととなり、当社グループの経営に影響を与える可能性があります。

# 財務セクション

## 3年間の財務データ

株式会社大塚商会及び連結子会社 12月31日に終了した各年度	百万円			千米ドル
	2009	2010	2011	2011
売上高	¥429,927	¥463,493	<b>¥478,215</b>	<b>\$6,152,266</b>
システムインテグレーション事業	226,688	253,541	<b>262,508</b>	<b>3,377,178</b>
サービス&サポート事業	200,938	208,008	<b>214,576</b>	<b>2,760,540</b>
その他の事業	2,300	1,942	<b>1,130</b>	<b>14,546</b>
営業利益	16,094	19,013	<b>23,095</b>	<b>297,120</b>
経常利益	16,427	19,508	<b>23,315</b>	<b>299,954</b>
税金等調整前当期純利益	16,237	18,687	<b>22,350</b>	<b>287,542</b>
当期純利益	8,782	10,631	<b>12,744</b>	<b>163,952</b>
総資産	198,076	213,401	<b>229,610</b>	<b>2,953,951</b>
有利子負債	8,684	7,802	<b>8,415</b>	<b>108,266</b>
自己資本	101,740	108,255	<b>116,633</b>	<b>1,500,500</b>
1株当たり当期純利益(円、米ドル)	277.92	336.42	<b>403.28</b>	<b>5.19</b>
1株当たり配当金(円、米ドル)	130.00	135.00	<b>155.00</b>	<b>1.99</b>
1株当たり営業キャッシュ・フロー(円、米ドル)	505.74	564.91	<b>732.82</b>	<b>9.42</b>
売上高営業利益率(%)	3.74	4.10	<b>4.83</b>	—
売上高当期純利益率(%)	2.04	2.29	<b>2.66</b>	—
有利子負債比率(%)	4.38	3.66	<b>3.67</b>	—
自己資本比率(%)	51.36	50.73	<b>50.80</b>	—
自己資本当期純利益率(ROE)(%)	8.84	10.13	<b>11.33</b>	—

自己資本＝純資産合計－新株予約権－少数株主持分

自己資本当期純利益率(ROE)を算出する場合の自己資本は期中平均値を使用しています。

米ドル金額は、2011年12月末日の為替相場1ドル＝77.73円で換算しています。

.....	
経営陣による営業、財務の分析	30
.....	
連結貸借対照表	33
.....	
連結損益計算書	35
.....	
連結包括利益計算書	36
.....	
連結株主資本等変動計算書	37
.....	
連結キャッシュ・フロー計算書	39
.....	
連結財務諸表注記	40
.....	
独立監査人の監査報告書	52
.....	

## 経営陣による営業、財務の分析

### 売上高及び損益の状況

				百万円
	2010	2011	増減額	増減率
売上高	¥463,493	<b>¥478,215</b>	+14,722	+3.2%
システムインテグレーション事業	253,541	<b>262,508</b>	+8,966	+3.5
サービス&サポート事業	208,008	<b>214,576</b>	+6,567	+3.2
その他の事業	1,942	<b>1,130</b>	-812	-41.8
売上原価	363,094	<b>371,828</b>	+8,733	+2.4
売上総利益	100,398	<b>106,387</b>	+5,988	+6.0
販売費及び一般管理費	81,385	<b>83,292</b>	+1,907	+2.3
営業利益	19,013	<b>23,095</b>	+4,081	+21.5
経常利益	19,508	<b>23,315</b>	+3,807	+19.5
税金等調整前当期純利益	18,687	<b>22,350</b>	+3,663	+19.6
法人税、住民税及び事業税	8,865	<b>9,629</b>	+763	+8.6
法人税等調整額	-896	<b>-122</b>	+773	—
当期純利益	10,631	<b>12,744</b>	+2,112	+19.9

#### 売上高の概況

当連結会計年度における当社グループの売上高は、前年同期比147億22百万円増の4,782億15百万円(前年同期比3.2%増)となりました。

#### システムインテグレーション事業

コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、東日本大震災とタイ洪水被害による影響もありましたが、企業におけるシステム更新需要やIT投資に積極的な企業の需要を掴み、パソコンやサーバ、複写機等の販売台数を伸ばし、売上高は2,625億8百万円(前年同期比3.5%増)となりました。

#### サービス&サポート事業

サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、アウトソーシングサービス等により導入システムや企業活動をトータルにサポートするサービス&サポート事業では、震災後の計画停電や自粛ムードの影響を受けた商品やサービスもありましたが、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」を強調に伸ばし、保守等についても微増となり、売上高は2,145億76百万円(前年同期比3.2%増)となりました。

#### その他の事業

その他の事業では、売上高は11億30百万円(前年同期比41.8%減)となりました。

#### 損益の状況

利益につきましては、売上高の伸長により売上総利益が増加し、売上総利益は1,063億87百万円(前年同期比6.0%増)となりました。

売上総利益の増加が販売費及び一般管理費の増加を上回ったため、営業利益230億95百万円(前年同期比21.5%増)、経常利益233億15百万円(前年同期比19.5%増)、当期純利益127億44百万円(前年同期比19.9%増)となり、1株当たり当期純利益は403.28円となりました。



## 財政状態

			百万円	
	2010	2011	増減額	増減率
資産の部	¥213,401	<b>¥229,610</b>	+16,209	+7.6%
流動資産	148,251	<b>166,068</b>	+17,817	+12.0
固定資産	65,150	<b>63,542</b>	-1,608	-2.5
負債の部	104,469	<b>112,224</b>	+7,754	+7.4
流動負債	101,111	<b>108,180</b>	+7,069	+7.0
固定負債	3,358	<b>4,043</b>	+685	+20.4
純資産の部	108,931	<b>117,385</b>	+8,454	+7.8

### 資産の部

当連結会計年度末における資産合計は2,296億10百万円となり、前連結会計年度末に比べ162億9百万円増加しました。

流動資産は、現金及び預金などが増加したことにより1,660億68百万円と前連結会計年度末比178億17百万円増加しました。

固定資産は、635億42百万円と前連結会計年度末比16億8百万円減少しました。

### 負債の部

当連結会計年度末における負債合計は1,122億24百万円となり、前連結会計年度末に比べ77億54百万円増加しました。

流動負債は、支払手形及び買掛金などの増加により1,081億80百万円と前連結会計年度末比70億69百万円増加しました。

固定負債は、40億43百万円と前連結会計年度末比6億85百万円増加しました。

### 純資産の部

当連結会計年度末における純資産合計は、利益剰余金が増加したことなどにより1,173億85百万円と前連結会計年度末に比べ84億54百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は50.8%となり、前連結会計年度末より0.1ポイント向上いたしました。

インタレスト・カバレッジ・レシオは299.28倍、有利子負債比率は3.67%、自己資本当期純利益率（ROE）は11.33%、総資産事業利益率（ROA）は10.33%、となりました。

	2010	2011
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	207.26	<b>299.28</b>
有利子負債比率(%)	3.66	<b>3.67</b>
ROE(%)	10.13	<b>11.33</b>
ROA(%)	9.29	<b>10.33</b>

インタレスト・カバレッジ・レシオ=事業利益/(支払利息+社債利息)

総資産事業利益率(ROA)=事業利益/総資産(期中平均)

事業利益=営業利益+受取利息+有価証券利息+受取配当金+持分法投資損益

## キャッシュ・フローの状況

	百万円	
	2010	2011
営業活動によるキャッシュ・フロー	¥17,851	¥23,158
投資活動によるキャッシュ・フロー	-7,527	-4,604
財務活動によるキャッシュ・フロー	-5,205	-4,229
現金及び現金同等物の期末残高	37,924	52,320

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ143億95百万円(前年同期比38.0%増)増加し、当連結会計年度末には523億20百万円となりました。

当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動から得られた資金は、税金等調整前当期純利益の増加、たな卸資産の増減額が良化したことなどにより前連結会計年度に比べ53億6百万円増加し、231億58百万円となりました。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動に使用した資金は、横浜ビルが当連結会計年度に竣工したことなどにより前連結会計年度に比べ29億23百万円減少し、46億4百万円となりました。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動に使用した資金は、前連結会計年度に比べ9億76百万円減少し、42億29百万円となりました。

また、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合わせたフリー・キャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べて82億29百万円増加し、185億53百万円となりました。

## 次期の見通し

2012年12月期の連結業績見通しといたしましては、売上高4,930億円(前年同期比3.1%増)、営業利益240億円(前年同期比3.9%増)、経常利益245億円(前年同期比5.1%増)、当期純利益135億50百万円(前年同期比6.3%増)を計画しております。

セグメント別の売上高では、システムインテグレーション事業が2,691億10百万円(前年同期比2.5%増)、サービス&サポート事業が2,229億90百万円(前年同期比3.9%増)、その他の事業が9億円(前年同期比20.4%減)を計画しております。

## 連結貸借対照表

株式会社大塚商会及び連結子会社  
2010年及び2011年12月31日現在

	百万円		千米ドル (注記3)
	2010	2011	2011
資産の部			
流動資産：			
現金・預金(注記 10、15)	¥ 32,669	¥ 45,600	\$ 586,655
受取手形及び未収金			
売掛金	75,574	80,606	1,037,011
非連結子会社・関連会社	1,350	1,146	14,753
その他	5,225	4,658	59,930
	82,149	86,412	1,111,695
貸倒引当金	(608)	(455)	(5,865)
	81,541	85,956	1,105,830
有価証券(注記 4、10)	5,000	5,000	64,325
棚卸資産(注記 6)	19,537	17,613	226,594
繰延税金資産(注記 9)	3,505	3,723	47,905
その他の流動資産(注記 10)	5,997	8,174	105,169
流動資産計	148,251	166,068	2,136,480
投資その他の資産：			
投資有価証券(注記 4)	2,460	2,311	29,732
関係会社株式	2,992	2,607	33,549
差入保証金	3,049	2,555	32,875
繰延税金資産(注記 9)	1,358	1,354	17,427
その他の投資	3,326	3,841	49,422
貸倒引当金	(997)	(1,099)	(14,142)
	12,191	11,571	148,865
有形固定資産：			
土地(注記 14)	17,179	17,291	222,455
建物及び構築物	61,939	65,059	836,993
その他	16,671	14,525	186,874
	95,791	96,876	1,246,323
減価償却累計額	(48,562)	(50,262)	(646,622)
有形固定資産(純額)	47,228	46,614	599,700
無形固定資産：			
ソフトウェア	5,544	5,197	66,870
その他	185	158	2,034
	5,730	5,355	68,905
資産合計	¥213,401	¥229,610	\$2,953,951

連結財務諸表にかかわる注記があります。



## 連結損益計算書

株式会社大塚商会及び連結子会社  
2010年及び2011年12月期

	百万円		千米ドル (注記3)
	2010	2011	2011
売上高(注記 17)	¥463,493	<b>¥478,215</b>	<b>\$6,152,266</b>
売上原価(注記 16、17)	363,094	<b>371,828</b>	<b>4,783,585</b>
売上総利益	100,398	<b>106,387</b>	<b>1,368,680</b>
販売費及び一般管理費(注記 16、17)	81,385	<b>83,292</b>	<b>1,071,560</b>
営業利益	19,013	<b>23,095</b>	<b>297,120</b>
その他の収益/(費用):			
受取利息・有価証券利息・配当金	109	<b>108</b>	<b>1,401</b>
支払利息	(92)	<b>(76)</b>	<b>(983)</b>
貸倒引当金戻入益	2	<b>91</b>	<b>1,179</b>
貸倒引当金繰入額	(202)	<b>(292)</b>	<b>(3,764)</b>
持分法による投資損益	(4)	<b>(325)</b>	<b>(4,187)</b>
固定資産除却損	(330)	<b>(167)</b>	<b>(2,157)</b>
減損損失	(127)	<b>(19)</b>	<b>(256)</b>
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	<b>(510)</b>	<b>(6,564)</b>
投資有価証券評価損	(4)	<b>(48)</b>	<b>(617)</b>
関係会社株式評価損	(113)	<b>(0)</b>	<b>(0)</b>
関係会社整理損	(37)	—	—
投資有価証券売却損益	(8)	<b>3</b>	<b>48</b>
その他(純額)	481	<b>491</b>	<b>6,325</b>
	(326)	<b>(744)</b>	<b>(9,578)</b>
税金等調整前当期純利益	18,687	<b>22,350</b>	<b>287,542</b>
法人税、住民税及び事業税(注記 9):			
法人税、住民税及び事業税	8,865	<b>9,629</b>	<b>123,877</b>
法人税等調整額	(896)	<b>(122)</b>	<b>(1,582)</b>
	7,968	<b>9,506</b>	<b>122,295</b>
少数株主損益調整前当期純利益	10,718	<b>12,844</b>	<b>165,246</b>
少数株主利益	86	<b>100</b>	<b>1,294</b>
当期純利益	¥ 10,631	<b>¥ 12,744</b>	<b>\$ 163,952</b>
		円	米ドル (注記3)
1株当たり当期純利益及び配当金(注記 2(14)、11):			
1株当たり当期純利益	¥336.42	<b>¥403.28</b>	<b>\$5.19</b>
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	336.28	<b>403.10</b>	<b>5.19</b>
1株当たり配当金	135.00	<b>155.00</b>	<b>1.99</b>

連結財務諸表にかかわる注記があります。

## 連結包括利益計算書

株式会社大塚商会及び連結子会社 2011年12月期	百万円	千米ドル (注記3)
	2011	2011
少数株主損益調整前当期純利益	¥12,844	\$165,246
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	(89)	(1,145)
土地再評価差額金	26	346
持分法適用会社に対する持分相当額	(37)	(482)
その他の包括利益合計(注記2(15))	(99)	(1,280)
包括利益	¥12,745	\$163,965
(内訳)(注記2(15))		
親会社株主に係る包括利益	¥12,645	\$162,681
少数株主に係る包括利益	99	1,284

連結財務諸表にかかわる注記があります。

## 連結株主資本等変動計算書

株式会社大塚商会及び連結子会社  
2010年及び2011年12月期

百万円

	発行済 株式総数	株主資本				株主資本合計
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	
2009年12月31日現在の残高	31,667,020	¥10,374	¥16,254	¥ 89,307	¥(123)	¥115,813
剰余金の配当				(4,108)		(4,108)
当期純利益				10,631		10,631
自己株式の取得					(1)	(1)
株主資本以外の項目の変動額						
2010年12月31日現在の残高	31,667,020	10,374	16,254	95,830	(124)	122,335
剰余金の配当				(4,266)		(4,266)
当期純利益				12,744		12,744
自己株式の取得					(0)	(0)
株主資本以外の項目の変動額						
2011年12月31日現在の残高	31,667,020	¥10,374	¥16,254	¥104,308	¥(125)	¥130,812

百万円

	その他の包括利益累計額					少数株主 持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計			
2009年12月31日現在の残高	¥380	¥(14,331)	¥(122)	¥(14,073)	¥1,039	¥102,779	
剰余金の配当						(4,108)	
当期純利益						10,631	
自己株式の取得						(1)	
株主資本以外の項目の変動額	3	—	(9)	(6)	(363)	(369)	
2010年12月31日現在の残高	383	(14,331)	(131)	(14,079)	675	108,931	
剰余金の配当						(4,266)	
当期純利益						12,744	
自己株式の取得						(0)	
株主資本以外の項目の変動額	(92)	26	(33)	(98)	(76)	(22)	
2011年12月31日現在の残高	¥291	¥(14,304)	¥(165)	¥(14,178)	¥ 752	¥117,385	

連結財務諸表にかかわる注記があります。

## 連結株主資本等変動計算書

株式会社大塚商会及び連結子会社  
2010年及び2011年12月期

千米ドル (注記3)

	発行済 株式総数	株主資本				
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2010年12月31日現在の残高	31,667,020	\$133,472	\$209,118	\$1,232,861	\$(1,605)	\$1,573,846
剰余金の配当				(54,884)		(54,884)
当期純利益				163,952		163,952
自己株式の取得					(10)	(10)
株主資本以外の項目の変動額						
2011年12月31日現在の残高	31,667,020	\$133,472	\$209,118	\$1,341,929	\$(1,615)	\$1,682,904

千米ドル (注記3)

	その他の包括利益累計額					少数株主 持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計			
2010年12月31日現在の残高	\$4,934	\$(184,373)	\$(1,693)	\$(181,132)	\$8,695	\$1,401,409	
剰余金の配当						(54,884)	
当期純利益						163,952	
自己株式の取得						(10)	
株主資本以外の項目の変動額	(1,187)	346	(430)	(1,271)	979	(291)	
2011年12月31日現在の残高	\$3,746	\$(184,026)	\$(2,123)	\$(182,403)	\$9,674	\$1,510,175	

連結財務諸表にかかわる注記があります。



# 連結キャッシュ・フロー計算書

株式会社大塚商会及び連結子会社  
2010年及び2011年12月期

千米ドル  
(注記3)

	百万円		
	2010	2011	2011
営業活動によるキャッシュ・フロー：			
税金等調整前当期純利益	¥18,687	¥22,350	\$287,542
減価償却費	6,089	5,944	76,479
持分法による投資利益	4	325	4,187
退職給付引当金の増減額	202	(20)	(257)
貸倒引当金増減額	108	116	1,495
受取利息及び受取配当金	(95)	(103)	(1,335)
有価証券利息	(13)	(5)	(66)
支払利息	92	76	983
固定資産除却損	210	167	2,157
減損損失	127	19	256
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	510	6,564
投資有価証券売却損(益)	(0)	(3)	(48)
投資有価証券評価損	4	48	617
関係会社株式評価損	113	0	0
関係会社整理損	37	—	—
売上債権の増減額	(4,803)	(3,884)	(49,973)
棚卸資産の増減額	(3,083)	1,931	24,847
仕入債務の増減額	4,077	3,992	51,361
その他	2,150	1,069	13,756
小計	23,908	32,535	418,568
利息及び配当金の受取額	133	144	1,862
利息の支払額	(93)	(77)	(996)
法人税等の支払額	(6,096)	(9,444)	(121,504)
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,851	23,158	297,929
投資活動によるキャッシュ・フロー：			
有形固定資産の取得による支出	(4,421)	(2,459)	(31,645)
有形固定資産の売却による収入	—	17	221
ソフトウェアの開発による支出	(3,029)	(2,522)	(32,453)
投資有価証券の取得による支出	(62)	(110)	(1,419)
投資有価証券の売却による収入	157	8	108
子会社株式の取得による支出	(490)	—	—
長期貸付金の貸付による支出	(308)	(291)	(3,747)
長期貸付金の回収による収入	149	63	818
その他	477	690	8,880
投資活動によるキャッシュ・フロー	(7,527)	(4,604)	(59,236)
財務活動によるキャッシュ・フロー：			
短期借入金の増減額(純額)	(1,000)	100	1,286
長期債務の返済による支出	(40)	(40)	(514)
配当金の支払額	(4,105)	(4,264)	(54,868)
その他	(60)	(24)	(315)
財務活動によるキャッシュ・フロー	(5,205)	(4,229)	(54,411)
現金及び現金同等物の増加額	5,118	14,324	184,281
現金及び現金同等物期首残高	32,806	37,924	487,905
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増加額	—	71	914
現金及び現金同等物期末残高(注記 10)	¥37,924	¥52,320	\$673,101

連結財務諸表にかかわる注記があります。

# 連結財務諸表注記

株式会社大塚商会及び連結子会社

## 1. 連結財務諸表の作成基準及び重要な会計方針の要約

### 会計原則

株式会社大塚商会(以下、当社という)及び連結子会社の連結財務諸表は日本の会社法、金融商品取引法に従い、日本において一般に公正妥当と認められている会計原則及び会計慣行に基づいて作成されたものです。これらの会計原則及び会計慣行は、国際財務報告基準の要求する開示や取扱いといくつかの点において異なっております。

また、当該連結財務諸表は、日本国外読者の利便性のために、関東財務局に提出したもとの表示を組み換えて作成しております。なお、前期の連結財務諸表を当期の表示形式に合わせて一部組替表示を行っております。

## 2. 重要な会計方針の要約

### (1) 連結の範囲

当社は2010年度において14社、2011年度においては12社の子会社を有しております。当該連結財務諸表においては、2010年度及び2011年度ともに8社の子会社を連結しております。

2011年12月期における8社の連結子会社は以下のとおりです。

	議決権の所有割合
(株)OSK	100.0%
(株)ネットプラン	100.0%
(株)アルファテクノ	100.0%
(株)アルファシステム	100.0%
(株)アルファネット	100.0%
大塚オートサービス(株)	100.0%
(株)ネットワールド	81.5%
(株)大塚ビジネスサービス	65.0%

(当社及び連結子会社を以下、連結会社と呼称します)

上記の連結子会社の決算日はすべて連結決算日と同一です。

上記以外の子会社(2010年度6社、2011年度4社)の総資産、売上高、連結純損益及び利益剰余金は重要な影響がないため、連結の範囲からは除外しております。

### (2) 非連結子会社及び関連会社株式

2010年度においては6社の非連結子会社及び9社の関連会社、また2011年度においては4社の非連結子会社及び10社の関連会社があります。

2010年度及び2011年度ともに3社の持分法適用関連会社があります。その他の非連結子会社及び関連会社については、それぞれ連結純損益及び利益剰余金に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法は適用せず原価法により評価しております。

2011年における3社の持分法適用関連会社は以下のとおりです。

	議決権の所有割合
サイオステクノロジー(株)	47.0%
大塚資訊科技(股)有限公司	38.2%
(株)ライオン事務器	40.4%

### (3) 現金及び現金同等物

連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

#### (4) 棚卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

商品	主として移動平均法
仕掛品	個別法
原材料及び貯蔵品	主として移動平均法

#### (5) 金融商品

##### (a) 有価証券

連結会社が保有する有価証券は、2つに分類されます。

- ・満期保有目的の債券  
償却原価法（定額法）

- ・その他の有価証券

時価のあるもの：決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）で処理しております。

時価のないもの：移動平均法による原価法で処理しております。

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

##### (b) デリバティブ

デリバティブ取引により生じる正味の債権及び債務は時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額は、当期の損益として処理しております。

#### (6) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産の減価償却の方法は、定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	15～50年
その他	4～6年

また、通常の修繕、維持に係る費用は、発生時の費用で処理しております。

#### (7) ソフトウェア及びその他の無形固定資産（リース資産を除く）

市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売金額に基づき、当連結会計年度の販売金額に対応する金額を償却しております。

ただし、毎期の償却額は残存有効期間（見込有効期間3年以内）に基づく均等配分額を下回らないこととしております。

社内利用のソフトウェアについては、利用可能期間（主として5年）に基づく定額法によっております。

その他の無形固定資産については定額法によっております。

#### (8) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が2008年12月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております

#### (9) 法人税等

連結会社の法人税等は、法人税、住民税及び事業税で構成されております。

連結会社は税効果会計を採用しております。法人税等は資産負債法により決定されております。即ち、繰延税金資産

及び繰延税金負債は、税法上の資産負債と連結財務諸表上の資産負債との一時差異について認識されています。

#### (10) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

#### (11) 退職給付引当金

##### (a) 退職給付引当金(従業員)

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。なお、過去勤務債務については、平均残存勤務期間内の一定の年数(12年)による定額法により按分した額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として12年)による定額法により按分した額を、発生の翌連結会計年度から費用処理することにしております。

##### (b) 役員退職慰労引当金

当社及び連結子会社7社では役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

#### (12) 受注制作のソフトウェア等に係る収益の計上及び費用の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるものについては、工事進行基準(原則として、工事の進捗率の見積りは原価比例法)によっております。

その他のものについては、工事完成基準によっております。

#### (13) 資産除去債務に関する会計基準の適用

(2011年12月期)

当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当連結会計年度の営業利益は46百万円(595千米ドル)増加し、税金等調整前当期純利益は463百万円(5,968千米ドル)減少しております。

#### (14) 1株当たり当期純利益及び配当金

1株当たり当期純利益は、各年の期中平均発行済株式総数を基に計算しております。連結損益計算書に表示されている1株当たり配当金は、各々の年度に対応した利益処分にに基づく金額を示しております。

潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、希薄化効果を有する発行済みの新株予約権(ストックオプション)がすべて行使されたと仮定して計算しております。

#### (15) 連結包括利益計算書

当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益は以下の通りです。

	百万円	
	2010	
その他有価証券評価差額金	¥	3
持分法適用会社に対する持分相当額		(9)
その他の包括利益合計		(6)

当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益は以下の通りです。

	百万円
	2010
親会社株主に係る包括利益	¥10,625
少数株主に係る包括利益	86

#### (16) 消費税

日本の消費税法は、国内のすべての財、サービスの消費に対して均一率の消費税を課しております（一部免税あり）。売上に係る消費税は連結損益計算書の売上高には含めず、負債として処理しております。連結会社が支払った仕入等に係る消費税についてもまた原価及び費用には含めておらず、これらの売上にかかる消費税と仕入等に係る消費税の相殺後の金額を、流動負債その他に含めております。

#### (17) 金額表示

百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 3. 米ドル金額

米ドル表示金額は、海外読者の便宜を図るために表示しております。円貨からの換算レートは2011年12月末日の為替相場1ドル=¥77.73で算出しておりますが、これらの計算は実際に、このレートで円貨が米ドルに交換、決済されたことを示しているものではありません。

### 4. 投資有価証券及び非連結子会社・関連会社に対する投資

2010年及び2011年12月31日現在、投資有価証券及び非連結子会社・関連会社に対する投資は次のとおりです。

#### (1) その他有価証券で時価のあるもの

	百万円						千米ドル		
	2010			2011			2011		
	取得原価	連結貸借 対照表 計上額	差額	取得原価	連結貸借 対照表 計上額	差額	取得原価	連結貸借 対照表 計上額	差額
連結貸借対照表計上額>取得原価									
①株式	¥ 855	¥1,581	¥725	¥ 694	¥1,297	¥ 603	\$ 8,929	\$16,693	\$ 7,763
②債券	—	—	—	—	—	—	—	—	—
③その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	¥ 855	¥1,581	¥725	¥ 694	¥1,297	¥ 603	\$ 8,929	\$16,693	\$ 7,763
連結貸借対照表計上額≤取得原価									
①株式	¥ 183	¥ 148	¥ (34)	¥ 372	¥ 277	¥ (95)	\$ 4,794	\$ 3,570	\$(1,223)
②債券	—	—	—	—	—	—	—	—	—
③その他	92	70	(21)	92	60	(31)	1,187	778	(408)
	¥ 275	¥ 219	¥ (56)	¥ 464	¥ 338	¥ (126)	\$ 5,981	\$ 4,349	\$(1,631)
合計	¥1,131	¥1,800	¥668	¥1,159	¥1,635	¥ 476	\$14,911	\$21,042	\$ 6,131

(2) 2010年及び2011年12月31日に終了する連結会計年度中に売却したその他有価証券

						百万円	千米ドル		
						2010	2011		
	売却額	売却益 の合計	売却損 の合計	売却額	売却益 の合計	売却損 の合計	売却額	売却益 の合計	売却損の 合計
	¥157	¥0	¥8	¥8	¥3	—	\$102	\$43	—

(3) 時価のない主な有価証券の内容

				百万円	千米ドル	
				2010	2011	
				連結貸借対照表計上額	連結貸借対照表計上額	
①満期保有目的の債券						
国内譲渡性預金		¥5,000		¥5,000		\$64,325
②その他有価証券						
非上場株式		576		593		7,641
投資事業有限責任組合 及びそれに類する組合 への出資		84		81		1,048

(4) その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額

							百万円	千米ドル		
							2010	2011		
							1年以内	1年超	1年以内	1年超
満期保有目的の債券										
国内譲渡性預金	¥5,000	—		¥5,000	—		\$64,325	—		
コマーシャルペーパー	—	—		—	—		—	—		
合計	¥5,000	—		¥5,000	—		\$64,325	—		

## 5. デリバティブ取引

利用しているデリバティブ取引は、先物為替予約取引であります。

デリバティブ取引は、外貨建金銭債権債務の為替変動リスクを回避し、安定的な利益の確保を図る目的で利用しております。

ただし、デリバティブ取引は、将来の為替の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。

なお、ヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

ヘッジ手段……先物為替予約

ヘッジ対象……買掛金

先物為替予約取引は、為替相場の変動によるリスクを有しております。しかし、取引相手先は高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

また、デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い、資金担当部門が決裁担当者の承認を得て行っております。

2010年及び2011年12月31日現在のデリバティブ取引の内訳は次のとおりです。

通貨関連

	百万円			
	2010			
	契約額等		時価	評価損益
合計	1年超			
先物為替予約買建米ドル	¥57	—	¥(0)	¥(0)

	百万円			
	2011			
	契約額等		時価	評価損益
合計	1年超			
先物為替予約買建米ドル	¥46	—	¥(0)	¥(0)

	千米ドル			
	2011			
	契約額等		時価	評価損益
合計	1年超			
先物為替予約買建米ドル	\$601	—	\$(1)	\$(1)

6. 棚卸資産

2010年及び2011年12月31日現在の棚卸資産の内訳は次のとおりです。

	百万円		千米ドル
	2010	2011	2011
商品	¥17,858	¥15,833	\$203,699
仕掛品	625	818	10,529
原材料及び貯蔵品	1,053	961	12,365
	¥19,537	¥17,613	\$226,594

7. 銀行からの短期借入金と長期債務

2010年及び2011年12月31日現在の銀行からの短期借入金の平均金利は、それぞれ1.02%と0.99%となっております。

2010年及び2011年12月31日現在の長期債務は次のとおりです。

	百万円		千米ドル
	2010	2011	2011
銀行からの長期借入金			
利率1.63%	¥50	¥10	\$128
	50	10	128
1年以内返済予定分	(40)	(10)	(128)
	¥10	—	—

2011年12月31日現在、長期債務の各年度に返済する金額は以下のとおりです。

12月31日に終了する年度	百万円	千米ドル
2012年	¥10	\$128
2013年	—	—
2014年	—	—
2015年	—	—
	¥10	\$128

## 8. 退職給付引当金

### (1) 採用している退職給付制度の概要

当社及び特定の連結子会社は、退職給付型の制度として、確定拠出年金、規約型確定給付企業年金及び退職一時金制度を設けております。

### (2) 退職給付債務及びその内訳(2010年及び2011年12月31日現在)

	百万円		千米ドル
	2010	2011	2011
退職給付債務	¥(33,687)	<b>¥(33,944)</b>	<b>\$(436,699)</b>
年金資産	32,586	<b>33,305</b>	<b>428,476</b>
	(1,100)	<b>(639)</b>	<b>(8,223)</b>
未認識数理計算上の差異	4,176	<b>4,231</b>	<b>54,434</b>
未認識過去勤務債務	(3,626)	<b>(4,122)</b>	<b>(53,032)</b>
	(550)	<b>(530)</b>	<b>(6,821)</b>
前払年金費用	1,233	<b>1,371</b>	<b>17,648</b>
退職給付引当金	¥ (1,783)	<b>¥ (1,902)</b>	<b>\$ (24,469)</b>

(注)2010年及び2011年12月31日現在の連結貸借対照表の退職給付引当金残高にはそれぞれ559百万円、482百万円(6,205千米ドル)の役員退職慰労引当金を含んでおります。

### (3) 退職給付費用の内訳(2010年1月から2010年12月まで、及び2011年1月から2011年12月まで)

	百万円		千米ドル
	2010	2011	2011
勤務費用	¥2,304	<b>¥2,213</b>	<b>\$28,478</b>
利息費用	480	<b>476</b>	<b>6,125</b>
期待運用収益	(155)	<b>(162)</b>	<b>(2,096)</b>
過去勤務債務の費用処理額	(690)	<b>(793)</b>	<b>(10,213)</b>
数理計算上の差異の費用処理額	621	<b>553</b>	<b>7,124</b>
確定拠出年金への掛金支払額	788	<b>798</b>	<b>10,267</b>
臨時に支払った割増退職金	239	<b>234</b>	<b>3,012</b>
退職給付費用(純額)	¥3,587	<b>¥3,319</b>	<b>\$42,699</b>

(注)簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は勤務費用に計上しております。

### (4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項(2010年及び2011年12月31日現在)

	2010	2011
1. 割引率	1.5%	<b>1.5%</b>
2. 期待運用収益率	0.5%	<b>0.5%</b>
3. 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	<b>期間定額基準</b>
4. 過去勤務債務の処理年数	12年	<b>12年</b>
5. 数理計算上の差異の処理年数	翌連結会計年度より主として12年	<b>翌連結会計年度より主として12年</b>



## 9. 法人税等

(2010年12月期)

法定実効税率(40.7%)と税効果適用後の法人税等の負担率(42.6%)との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(2011年12月期)

法定実効税率(40.7%)と税効果適用後の法人税等の負担率(42.5%)との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

2010年及び2011年12月31日現在で、繰延税金資産・負債の重要な構成要素は次のとおりです。

	百万円		千米ドル
	2010	2011	2011
繰延税金資産			
貸倒引当金	¥ 421	¥ 351	\$ 4,528
未払事業税等	520	537	6,911
賞与引当金	1,087	1,152	14,829
退職給付引当金	727	688	8,859
役員退職慰労引当金	228	173	2,229
減損損失	1,110	950	12,232
ソフトウェア開発費	1,529	1,444	18,578
未実現利益の消去	320	280	3,605
その他	1,945	1,768	22,751
繰延税金資産合計	7,893	7,347	94,527
評価性引当額	(2,181)	(1,624)	(20,893)
差引：繰延税金資産	5,711	5,723	73,633
繰延税金負債			
プログラム準備金	112	—	—
前払年金費用	503	495	6,379
有価証券評価差額	271	164	2,115
その他	65	71	919
繰延税金負債合計	952	731	9,414
繰延税金資産(純額)	¥4,759	¥4,991	\$64,219

(2011年12月期)

### 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の修正

2011年12月2日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」が公布され、2012年4月1日以降開始する事業年度より法人税率が変更されることとなりました。これに伴い、2013年1月1日に開始する事業年度から2015年1月1日に開始する事業年度の期間において解消が見込まれる一時差異については、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率を40.7%から38.0%に変更し、2016年1月1日に開始する事業年度以降において解消が見込まれる一時差異については、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率を40.7%から35.6%に変更しております。

この変更により、当連結会計年度末の繰延税金資産の純額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は109百万円(1,408千米ドル)減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額は132百万円(1,704千米ドル)、その他有価証券評価差額は23百万円(296千米ドル)それぞれ増加しております。

## 10. キャッシュ・フロー情報

現金及び現金同等物は次のとおりです。

	2010	百万円 2011	千米ドル 2011
現金・預金及びその他の現金等価物	¥32,669	<b>¥45,600</b>	<b>\$586,655</b>
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	(555)	<b>(55)</b>	<b>(707)</b>
取得日から3ヶ月以内に満期又は償還期限の到来する有価証券	5,000	<b>5,000</b>	<b>64,325</b>
その他流動資産に含まれる運用期間が3ヶ月以内の信託受益権	809	<b>1,774</b>	<b>22,827</b>
現金及び現金同等物	¥37,924	<b>¥52,320</b>	<b>\$673,101</b>

## 11. 剰余金の配当

2011年12月31日に終了した事業年度に関する剰余金の配当について、以下のとおり2012年3月28日の定時株主総会において承認されました。

剰余金の配当	百万円	千米ドル
配当金(一株につき¥155.00)	¥4,898	\$63,015

## 12. リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、2008年12月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

2010年12月31日時点の取得価額、減価償却累計額及び期末帳簿価額は要約すると次のとおりです。

2011年度のこれらの情報については、重要性が低下したため、注記を省略しております。

	百万円 2010
取得価額	¥2,147
減価償却累計額	(1,557)
期末帳簿価額	¥ 589

2010年12月31日時点のファイナンス・リースに係る未経過リース料期末残高は要約すると次のとおりです。

	百万円 2010
1年内	¥366
1年超	248
	¥614

2010年12月31日に終了する事業年度中の支払リース料、減価償却費、支払利息は要約すると次のとおりです。

	百万円 2010
支払リース料	¥638
減価償却費	604
支払利息	21

減価償却費はリース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によって計算されております。

2010年及び2011年12月31日時点のオペレーティング・リースの未経過リース料期末残高は要約すると次のとおりです。

	百万円		千米ドル
	2010	2011	2011
1年内	¥ 256	¥ 692	\$8,906
1年超	1,162	1,782	22,933
	¥1,419	¥2,474	\$31,839

### 13. 株主資本

日本の会社法においては、剰余金の配当を行う場合、資本金の25%に相当する額が資本準備金及び利益準備金の合計額を超える時は、その超過額または配当の10%に相当する額のうちいずれか少ない方の金額を、資本準備金あるいは利益準備金として計上することが要求されております。また、配当は、株主総会の決議、もしくは一定の条件を充たした場合は取締役会の決議において、いつでも行うことが可能となっております。

ただし、資本準備金及び利益準備金から配当を実施することはできません。

### 14. 土地再評価

「土地の再評価に関する法律」及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。再評価差額から再評価に係る繰延税金資産を控除した金額を「再評価差額金」として純資産の部に計上しております。再評価の価格は、土地の再評価に関する法律施行令第2条第3号及び第4号に定める価格に合理的な調整を行って算出しております。なお、再評価は1回のみ認められております。再評価を行った土地の各期末における時価が再評価後の帳簿価額を下回っている金額は、2010年12月期が748百万円であり、2011年12月期が734百万円(9,448千米ドル)です。

### 15. 担保資産

2010年及び2011年12月31日現在、買掛金・支払手形に対する担保明細は次のとおりです。

	百万円		千米ドル
	2010	2011	2011
定期預金	¥5	¥5	\$64
	¥5	¥5	\$64

### 16. 研究開発費

2010年及び2011年12月31日に終了する連結会計年度の製造原価及び販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費は、それぞれ187百万円、217百万円(2,803千米ドル)です。

## 17. セグメント情報

### (1) 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、情報システムの構築・稼働までを事業領域とする「システムインテグレーション事業」と、システム稼働後のサポートを事業領域とする「サービス&サポート事業」を主な事業としております。

従って、当社は「システムインテグレーション事業」及び「サービス&サポート事業」を報告セグメントとしております。

具体的な事業内容としては、次のとおりであります。「システムインテグレーション事業」は、コンサルティングからシステム設計・開発・搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供しております。「サービス&サポート事業」は、サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、アウトソーシングサービス等により導入システムや企業活動をトータルにサポートしております。

### (2) 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「2.重要な会計方針の要約」における記載と概ね同一であります。また、報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であり、各セグメント間の内部取引は市場実勢価格に基づいております。

### (3) 報告ごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

	報告セグメント					百万円	
	システムインテグレーション事業	サービス&サポート事業	計	その他(注1)	合計	2010	
						調整額(注2)	連結財務諸表計上額(注3)
売上高							
外部顧客への売上高	¥253,541	¥208,008	¥461,550	¥1,942	¥463,493	¥ —	¥463,493
セグメント間の内部売上高又は振替高	254	317	571	2,047	2,618	(2,618)	—
売上高計	¥253,795	¥208,326	¥462,121	¥3,990	¥466,112	¥(2,618)	¥463,493
セグメント利益	¥ 18,818	¥ 7,182	¥ 26,001	¥ 155	¥ 26,157	¥(7,143)	¥ 19,013
セグメント資産	¥ 86,202	¥ 77,591	¥163,794	¥2,218	¥166,012	¥47,388	¥213,401
その他の項目							
減価償却費	¥ 3,037	¥ 2,238	¥ 5,275	¥ 35	¥ 5,310	¥ 779	¥ 6,089
持分法適用会社への投資額	1,847	817	2,664	—	2,664	—	2,664
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	4,059	3,085	7,145	71	7,216	233	7,450

	報告セグメント					2011	
	システムインテグレーション事業	サービス&サポート事業	計	その他(注1)	合計	調整額(注2)	連結財務諸表計上額(注3)
	百万円						
売上高							
外部顧客への売上高	¥262,508	¥214,576	¥477,084	¥1,130	¥478,215	¥ —	¥478,215
セグメント間の内部売上高 又は振替高	104	488	593	2,048	2,641	(2,641)	—
売上高計	¥262,612	¥215,065	¥477,678	¥3,178	¥480,857	¥(2,641)	¥478,215
セグメント利益	¥ 22,717	¥ 7,485	¥ 30,202	¥ 97	¥ 30,299	¥(7,204)	¥ 23,095
セグメント資産	¥ 89,240	¥ 79,120	¥168,360	¥1,853	¥170,214	¥59,396	¥229,610
その他の項目							
減価償却費	¥ 3,157	¥ 2,198	¥ 5,356	¥ 47	¥ 5,404	¥ 540	¥ 5,944
持分法適用会社への投資額	1,319	943	2,262	—	2,262	—	2,262
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	2,936	2,168	5,104	26	5,131	191	5,322

	報告セグメント					2011	
	システムインテグレーション事業	サービス&サポート事業	計	その他(注1)	合計	調整額(注2)	連結財務諸表計上額(注3)
	千米ドル						
売上高							
外部顧客への売上高	\$3,377,178	\$2,760,540	\$6,137,719	\$14,546	\$6,152,266	\$ —	\$6,152,266
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,347	6,285	7,632	26,350	33,983	(33,983)	—
売上高計	\$3,378,525	\$2,766,826	\$6,145,351	\$40,897	\$6,186,249	\$(33,983)	\$6,152,266
セグメント利益	\$ 292,255	\$ 96,301	\$ 388,557	\$ 1,250	\$ 389,807	\$(92,687)	\$ 297,120
セグメント資産	\$1,148,083	\$1,017,886	\$2,165,970	\$23,849	\$2,189,819	\$764,132	\$2,953,951
その他の項目							
減価償却費	\$ 40,626	\$ 28,288	\$ 68,915	\$ 609	\$ 69,524	\$ 6,954	\$ 76,479
持分法適用会社への投資額	16,979	12,134	29,113	—	29,113	—	29,113
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	37,773	27,895	65,668	342	66,010	2,462	68,473

(注) 1. その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル保守管理、自動車整備、保険、DM、情報管理等の事業を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額には、主として、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。なお、2010年及び2011年のセグメント利益の調整額に含まれる全社費用の金額は、それぞれ7,171百万円、7,234百万円(93,075千米ドル)です。

(2) セグメント資産の調整額には、主として、全社資産が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の余資運用資金(現金及び預金、投資有価証券)及び親会社の管理部門に係る資産であります。なお、2010年及び2011年のセグメント資産の調整額に含まれる全社資産の金額は、それぞれ49,139百万円、61,024百万円(785,087千米ドル)です。

(3) その他の項目の減価償却費の調整額は、主に全社資産に係る減価償却費であります。有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に全社資産に係る増加額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 18. 重要な後発事象

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

### 株式会社大塚商会 取締役会 宛

我々は、添付の株式会社大塚商会及び連結子会社の2011年及び2010年12月31日現在の円貨で表示された連結貸借対照表、並びにこれらに関連する2011年及び2010年12月31日をもって終了した連結会計年度の連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書、連結包括利益計算書について監査を行った。これらの連結財務諸表の作成責任は会社の経営者にある。我々の責任は、我々の監査に基づき、連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

我々は、日本において一般に公正妥当と認められた監査基準に従って監査を実施した。これらの監査基準は、我々に連結財務諸表に重要な虚偽の記載がないかどうかについて合理的保証を得ることを求めている。監査は試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積もりの評価も含め、連結財務諸表全体としての表示を検討することを含んでいる。我々は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

我々の意見によれば、上記の連結財務諸表は、日本において一般に公正妥当と認められた会計基準に準拠して、株式会社大塚商会及び連結子会社の2011年及び2010年12月31日現在の連結財政状態並びに同日をもって終了した連結会計年度の連結経営成績及び連結キャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示している。

添付の2011年12月31日をもって終了した連結会計年度の連結財務諸表に記載されている米ドル金額は、単に読者の便宜のため表示したものである。我々の監査は、当該米ドル金額への換算を含んでおり、我々の意見によれば、当該換算は注記3に述べられている方法により行われている。

新日本有限責任監査法人

2012年3月28日

本監査報告書は、OTSUKA CORPORATION Annual Report 2011に掲載されている“Report of Independent Auditors”を翻訳したものです。

## 企業グループの状況 (2011年12月31日現在)

当社グループ(大塚商会及び大塚商会の関係会社)は連結子会社8社を含む子会社12社と持分法適用会社3社を含む関連会社10社より構成されており、システムインテグレーション事業、サービス&サポート事業及びその他の事業を行っています。連結子会社8社は以下の通りとなっています。

会社名	設立	資本金 (百万円)	議決権比率	事業内容
<b>■ システムインテグレーション事業</b>				
(株)OSK	1984年	300	100.0%	●パッケージソフトの開発、販売
(株)ネットプラン	1964年	499	100.0%	●電気通信工事及び内装工事
(株)アルファシステム	1967年	80	100.0%	●受託ソフト・パッケージ開発及びERPコンサル事業
(株)ネットワールド	1990年	585	81.5%	●ネットワーク関連製品の販売・技術サポート
<b>■ サービス&amp;サポート事業</b>				
(株)アルファテクノ	1996年	50	100.0%	●パソコン・周辺機器の修理、データ復旧サービス
(株)アルファネット	1997年	400	100.0%	●ネットワークシステムのサービス・サポート全般
<b>■ その他の事業</b>				
大塚オートサービス(株)	1987年	50	100.0%	●自動車整備・板金、保険代理店業
(株)大塚ビジネスサービス	1992年	50	65.0%	●ダイレクトメール作成・発送代行、情報管理・処理、HP作成代行

## 会社概要 (2011年12月31日現在)

商号	株式会社大塚商会
創業	1961年7月17日(設立:1961年12月13日)
資本金	10,374,851,000円
従業員	6,684名(連結子会社を含めた従業員数:8,185名)
事業内容	システムインテグレーション事業 コンピュータ、複写機、通信機器、ソフトウェアの販売及び受託ソフトの開発等 サービス&サポート事業 サプライ供給、保守、教育支援等
主要取引銀行	株式会社横浜銀行 株式会社三菱東京UFJ銀行 株式会社みずほ銀行

### 主要事業拠点 (2011年12月31日現在)

本社	〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4 TEL.03-3264-7111(代表)
関西支社	〒553-8558 大阪府大阪市福島区福島6-14-1 TEL.06-6456-2711(代表)
地域営業部	中央第一営業部 中央第二営業部 神奈川営業部 城西営業部 多摩営業部 城北営業部 北関東営業部 京葉営業部 大阪北営業部 大阪南営業部
支店	札幌支店 仙台支店 宇都宮支店 中部支店 京都支店 神戸支店 広島支店 九州支店



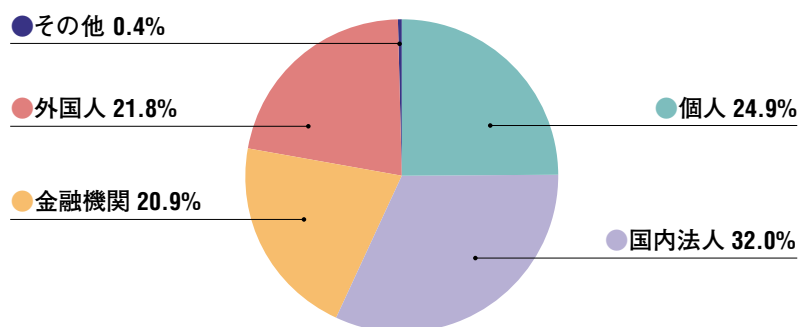
## 株式の状況 (2011年12月31日現在)

発行可能株式総数	112,860,000株
発行済株式の総数	31,667,020株
単元株式数	100株
株主数	4,907名

### ■大株主(上位10名)


株主名	当社への出資状況		当社の当該株主への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)	持株数(株)	持株比率(%)
大塚装備株式会社	9,788,330	30.91	—	—
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,633,300	5.15	—	—
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,231,700	3.88	—	—
大塚商会社員持株会	1,138,820	3.59	—	—
大塚 裕司	946,980	2.99	—	—
大塚 厚志	945,950	2.98	—	—
大塚 実	945,490	2.98	—	—
大塚 照恵	645,500	2.03	—	—
サジャップ	533,000	1.68	—	—
シービーニューヨーク オービス エスアイシーアーヴィー	354,900	1.12	—	—

### ■所有者別株式分布状況(株式数ベース)



大塚商会Webサイト

<http://www.otsuka-shokai.co.jp>

 株式会社 **大塚商会**

〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4 電話 03-3264-7111